SHARP

AQUOS オーディオ

取扱説明書

1ビットシアターラックシステム

形　名

エイ　エヌ　　エイ　シー　アール
AN-ACR1
エイ　エヌ　　エイ　シー　エス
AN-ACS1

1-BIT TECHNOLOGY

AN-ACR1

AN-ACS1

お買いあげいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- ご使用前に、「安全上のご注意」（4〜8ページ）を必ずお読みください。
- この取扱説明書は、保証書とともに、いつでも見ることができるところに必ず保存してください。
- 製造番号は品質管理上重要なものですから、商品本体に表示されている製造番号と、保証書に記入されている製造番号とが一致しているか、お確かめください。
- 本取扱説明書では、特に機種名を明示している場合を除いてAN-ACS1を例にとって説明しています。
  AN-ACR1は外形寸法などは異なりますが使いかたは同じです。

もくじ

はじめに
初めて使うときは必ずお読みください。

準備・接続
操作を始める前に必要な内容です。

音を楽しむ
基本的な再生操作と音の調整です。

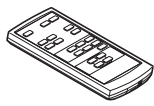
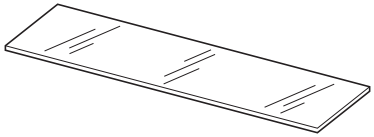
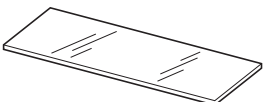
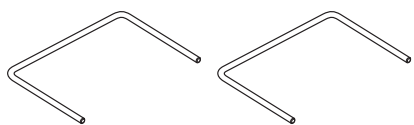
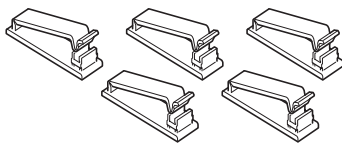
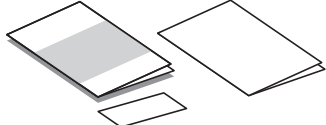
情報ページ
困ったときに確認する項目や仕様など便利な情報のページです。

本書で使われているマークについて

ご注意　正しくお使いいただくためのご注意です。

おしらせ　もう少し詳しい説明や、機能の制限事項です。

こんなときは ▶▶▶

お手入れをするときは ☞ 7ページ

故障かな？と思ったら ☞ 38〜39ページ

よくあるお問い合わせ ☞ 39ページ

付属品

付属品をご確認ください。

リモコン×1

（ボタン電池が入っています。）

使いかた→13ページ

光デジタル音声ケーブル×1
（約1.5m）

使いかた→18〜19ページ

HDMIケーブル×1
（約1.5m）

使いかた→18〜19ページ

天板ガラス×1

使いかた→14ページ

棚板ガラス×1

使いかた→14ページ

壁当て×2

使いかた→15ページ

テレビ転倒防止用部品

固定用ネジ×2

ワッシャー×2

使いかた→16ページ

クリーニングクロス×1

使いかた→7ページ

ケーブルクランプ×5

使いかた→20ページ

取扱説明書（本書）×1 ※
かんたん!!ガイド×1 ※
保証書×1

※当商品は日本国内向けであり、日本語以外の説明書はございません。
This model is designed exclusively for Japan, with manuals in Japanese only.

天板ガラスや棚板ガラス、壁当てなどは、取り付けが必要です。

取り付けかた→14〜16ページ

商標などについて

HDMI、HDMI ロゴおよび高品位マルチメディアインターフェイスは、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、ダブル D 記号、AAC ロゴ、Audistry およびサウンド・シェル・ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

“DTS”、“DTS Digital Surround” は、DTS, Inc. の登録商標です。

AAC は正式名称を MPEG-2 Advanced Audio Coding といい、MPEG-2 仕様の一部として標準化された音声圧縮技術です。
以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

安全上のご注意

ご使用前に**「安全上のご注意」**を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。
内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

 警告 人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

 注意 人がけがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

図記号の意味
（図記号の一例です）

 記号は、気をつける必要があることを表しています。

 記号は、してはいけないことを表しています。

 記号は、しなければならないことを表しています。

警告

交流100ボルト以外の電圧で使用しない

100ボルト以外禁止

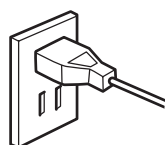
火災・感電の原因となります。

国外では使用できません

禁止

この製品が使用できるのは日本国内だけです。外国では電源電圧が異なりますので使用できません。
(This unit is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.)

電源プラグは確実に差し込む

確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ホコリが付着して火災・感電の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

タコ足配線をしない

禁止

火災・感電の原因となることがあります。

電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったり、加熱したり、加工したり、重い物を載せたり、この製品の下敷きにしない

禁止

電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷ついたときは、販売店に交換をご依頼ください。

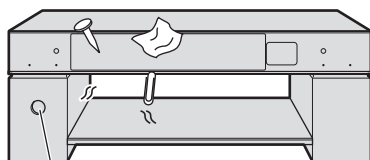
雷が鳴りだしたら、製品に触れない

接触禁止

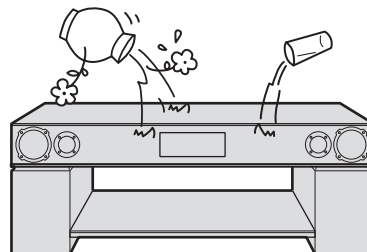
感電の原因となります。

⚠ 警告

開口部(バスレフダクトなど)から金属類や燃えやすい物などを入れない

禁止

火災･感電･けがの原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

本機の上に花びんなど、水の入った容器を置かない

水ぬれ禁止

水がこぼれるなどして中に入ると、火災･感電の原因となります。

風呂やシャワー室では使用しない

風呂、シャワー室での使用禁止

火災･感電の原因となります。

キャビネットを開けたり、改造しない

分解禁止

火災･感電･けがの原因となります。
内部の点検･調整･修理は、販売店にご依頼ください。

内部に水や異物などが入ったときは、電源を切り、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

そのまま使用すると、火災･感電の原因となります。販売店にご連絡ください。

煙やにおい、音などの異常が発生したら、本機の電源を切り、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

異常な状態のまま使用すると、火災･感電の原因となります。修理を販売店に依頼してください。お客様自身による修理は絶対におやめください。

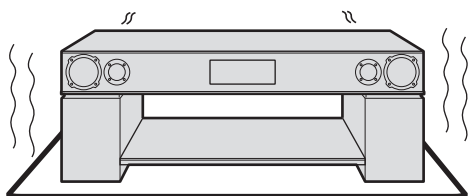
この製品を設置する場合は、壁との間隔を離して設置してください

離して設置

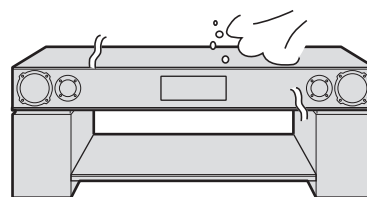
放熱をよくするために、背面に10cm以上のすきまをあけてください。
内部の温度上昇により、火災の原因となります。

⚠ 注意

不安定な場所に置かない

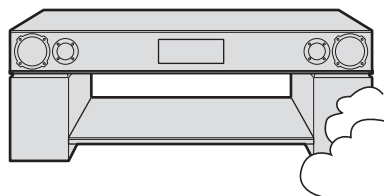
禁止

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

冷気が直接吹きつける所や、極端に寒い場所に置かない

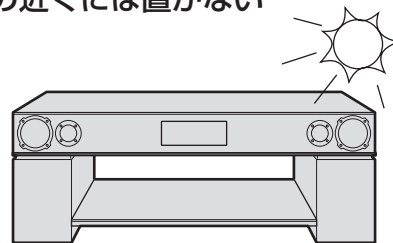
禁止

露がつき、漏電･焼損の原因となることがあります。

⚠ 注意

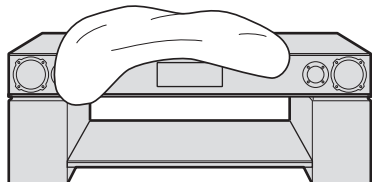
湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気が当たるようなところに置かない

禁止

調理器具や加湿器などのそばに置くと、火災・事故の原因となることがあります。

直射日光が長時間あたる場所や、暖房器具の近く、火気の近くには置かない

禁止

火災・事故の原因となることがあります。

風通しの悪いところで使用しない また、じゅうたんや布団などをかけない

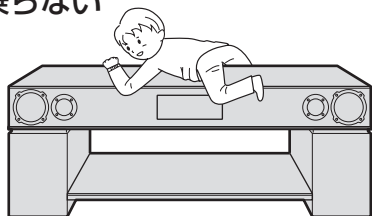
禁止

空冷ファンををふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

大音量で再生中に万一異音が出た場合は、音量レベルを下げてください

音量を下げる

そのまま使用すると、スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
また、電源を切る前には、アンプの音量を必ず最小にしてください。
電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

製品の上に乗らない

禁止

踏み台や腰かけのかわりに使わないでください。
倒れたりこわれたりして、けがの原因となることがあります。
特にお子様やペットにはご注意ください。

電源コードを熱器具に近づけない

禁止

電源コードの被覆がとけて、火災・感電の原因となることがあります。

本機は非常に重いので、持ち運びは必ず2人以上で行ってください

指示

腰を痛めたり、けがや故障の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

お手入れのときや長期間使用しないときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

感電やけがの原因となることがあります。

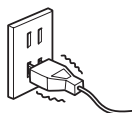
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

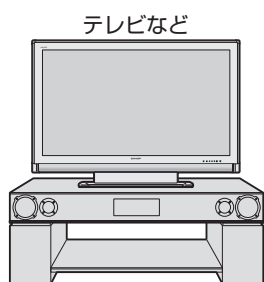
感電の原因となることがあります。

⚠ 注意

電源プラグはゆるみのあるコンセントに接続しない

禁止

火災・感電の原因となることがあります。

他の機器を接続するときは、指定のケーブルをお使いください

指定のケーブルを使用

接続するときは、必ず電源を切り、他の機器の取扱説明書をよくご覧のうえ、説明に従って接続してください。
また、付属のケーブルや指定以外のケーブルを使用すると、故障の原因となります。

移動するときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続線など外部の接続ケーブル、転倒防止具をはずし、テレビやDVDプレーヤーなど設置している機器を降ろしたことを確認のうえ、行ってください

電源プラグを抜く

電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
また、落下や転倒など思わぬ事故の原因となることがあります。

据えつけたあと、不意の地震や衝撃等により、この製品の上に載せたテレビなどが倒れてけがをするおそれがあります。テレビなどの転倒防止策を実施ください

転倒防止

ご使用上の注意

■ 長期間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

■ 本機は、5℃～35℃の場所でお使いください。

■ 使用中は、内部から発生する熱により、本機背面のアンプ部が熱くなります。
長時間触れていると、やけどの原因となることがあります。

■ パソコンなどの機器の近くで使用すると、それらの機器や本機に雑音が入ることがあります。そのときは、それらの機器の電源を切るか、本機との距離をできるだけ離してください。

■ 本機の近くで携帯電話を使用すると、本機が誤作動することがあります。また、携帯電話や本機に雑音が入ることがあります。

お手入れのしかた

付属のクリーニングクロスまたはやわらかい布で軽くふき取ってください。
汚れがひどいときは、水にひたした布をよくしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。

- ベンジンやシンナー、アルコールなどの化学薬品は使わないでください。また、殺虫剤などの揮発性のあるものをかけないでください。表面の仕上げをいためたり、変色の原因となることがあります。

リモコンの電池についての安全上のご注意
液もれ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

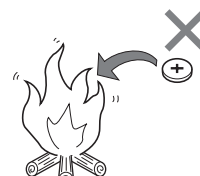
⚠ 注意

電池は幼児の手の届く所に置かない

禁止

電池は飲み込むと、窒息の原因となったり、胃などに止まったりして大変危険です。
飲み込んだおそれがあるときは、ただちに医師と相談してください。

電池は火や水の中に投入したり、加熱・分解・改造・ショートしない
また、電池は充電しない

禁止

電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池の液がもれたときは素手で触らない

禁止

- 電池の液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。

指定以外の電池を使わない

禁止

電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を使いきったときや、長時間使わないときは、電池を取り出す

指示

電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、故障・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池はプラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

表示どおりに入れる

間違えると電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を水に濡らさない
ハンダ付けしない
金属小物（かぎ・装飾品・ネックレス・コイン等）といっしょにポケットやかばんなどに入れない

禁止

- この製品は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店または裏表紙に記載のお客様相談センターまでご連絡ください。
- お客様または第三者がこの製品の使用誤り、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いません。

本機の特長

ファミリンク機能

- HDMI CEC (Consumer Electronics Control)対応の当社製アクオスやデジタルハイビジョンレコーダー、ブルーレイディスクプレーヤーなどの機器と接続することで、本機が連携し動作する機能です。
  アクオスのリモコン(または、デジタルハイビジョンレコーダーのファミリンク対応リモコン)を使って、アクオスから本機の電源「入/切」や音量調整、消音、音声切換などを行うことができます。
- デジタル放送の番組情報にあわせてサウンドモードを自動選択し、サラウンド音声をかんたんに楽しめます。

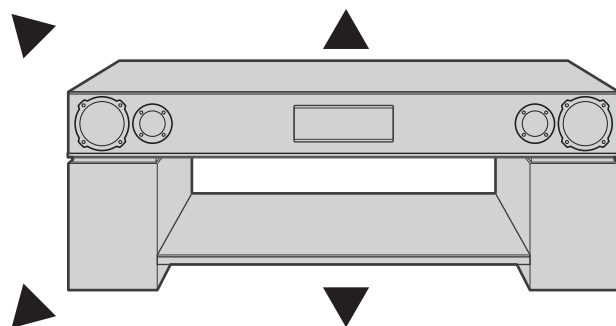
ファミリンクに対応している当社製製品（2007年3月現在）

アクオス：
LC-65RX1W、LC-52RX1W、LC-52GX1W、LC-52GX2W、LC-46RX1W、LC-46GX1W、LC-46GX2W、LC-42GX1W、LC-42GX2W、LC-37GS10、LC-37GS20、LC-37GX1W、LC-37GX2W、LC-37GH1、LC-37GH2、LC-32GS10、LC-32GS20、LC-32GH1、LC-32GH2、LC-32D10、LC-26D10

デジタルハイビジョンレコーダー：
DV-ACW60、DV-ACW55、DV-ACW52、DV-ACW38、DV-AC55、DV-AC52、DV-AC34、DV-AC32、DV-ACV32

ブルーレイディスクプレーヤー：
BD-HP1

自然でキレのよい高音質サウンドを実現する 11.2MHz 1ビットデジタルアンプを搭載

- フロントスピーカー用アンプに1ビットデジタルアンプを搭載していますので、1秒間に約1120万回という高速サンプリングにより、音の分解能力を向上しています。
  音の伝送／増幅を1ビットデジタル信号で行い、音の立ち上がりや滑らかさを高品位に再現するほか、アナログ信号処理に比べ音質劣化の少ないクリアーな音質を実現します。

臨場感あふれるサラウンド空間を実現

ドルビーバーチャルスピーカー

- 2つのスピーカーとサブウーハー(2.1ch)だけで5.1chのような立体感のあるサラウンド効果音を実現します。
  2ch音声の映画や音楽などのソフトも臨場感のあるサラウンド効果音で楽しめます。

オーディストリー

- ステレオ（2chオーディオ）で4種類の音場効果を実現します。
  ドラマや音楽･スポーツ番組などをお好みのモードで楽しめます。

高音質サウンドを楽しめる各種デコーダーを搭載

- DVDソフトなどに採用されているドルビーデジタル方式やDTS方式に対応しています。
- 地上デジタル／BSデジタル放送の音声方式（AAC)に対応しています。
- 地上アナログやビデオなどのステレオ音声も、5.1chのようなサラウンドで楽しめるドルビープロロジックⅡに対応しています。

●高級感のあるピアノフィニッシュを採用した家具調ラック
●総合出力150Wのハイパワー、迫力の重低音を再生するサブウーハーを内蔵
●力強い低域と伸びのある高域を再現する10cmウーハーとドームツィーターを採用

※この取扱説明書でたんに「アクオス」と表記しているときは、アクオス（液晶テレビ）のことを意味します。

各部のなまえとはたらき

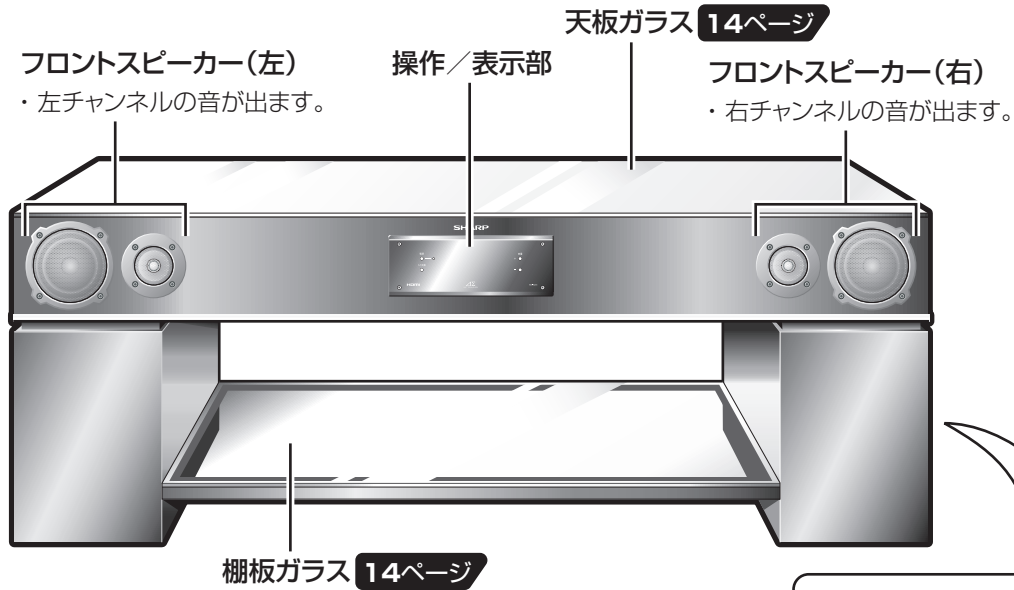
正　面

天板ガラス 14ページ

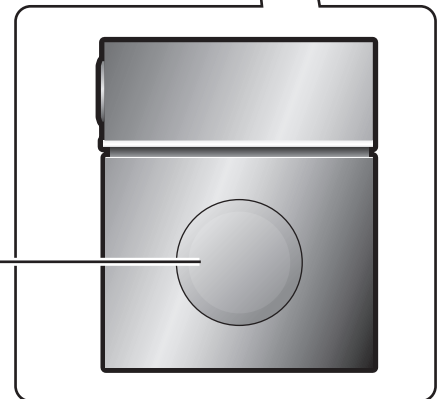
フロントスピーカー（左）
・左チャンネルの音が出ます。

操作／表示部

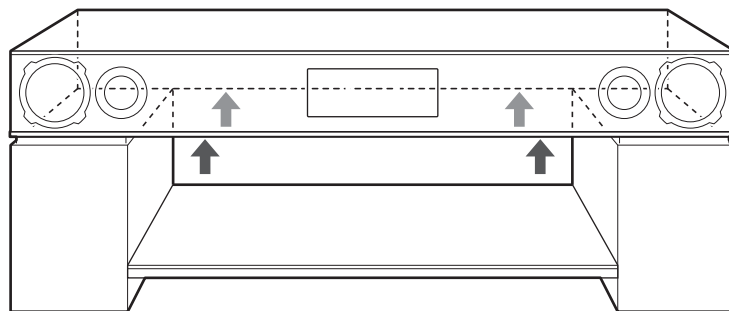
フロントスピーカー（右）
・右チャンネルの音が出ます。

棚板ガラス 14ページ

天板ガラスや棚板ガラスは取り付けが必要です。

取り付けかた→14ページ

サブウーハー
・重低音を再生します。

• サブウーハーは破損しやすいので、お取扱いにご注意ください。

持ち運び時の注意およびスピーカー部分の取扱いについて

製品を移動するときや設置するときは、必ず２人以上で行ってください。

ご注意

• 製品を移動するときや設置するときは、スピーカーネット部分を持たないでください。スピーカーの破損の原因となります。
  天板部の下板側の⬆マークの部分を持ってください。
• 棚板ガラスを載せる金属フレームの部分を持って、持ち運びを行わないでください。

操作部

電源ボタン 22ページ
・電源を入／切（待機）します。

音量（＋／－）ボタン 23ページ
・音量を調整します。

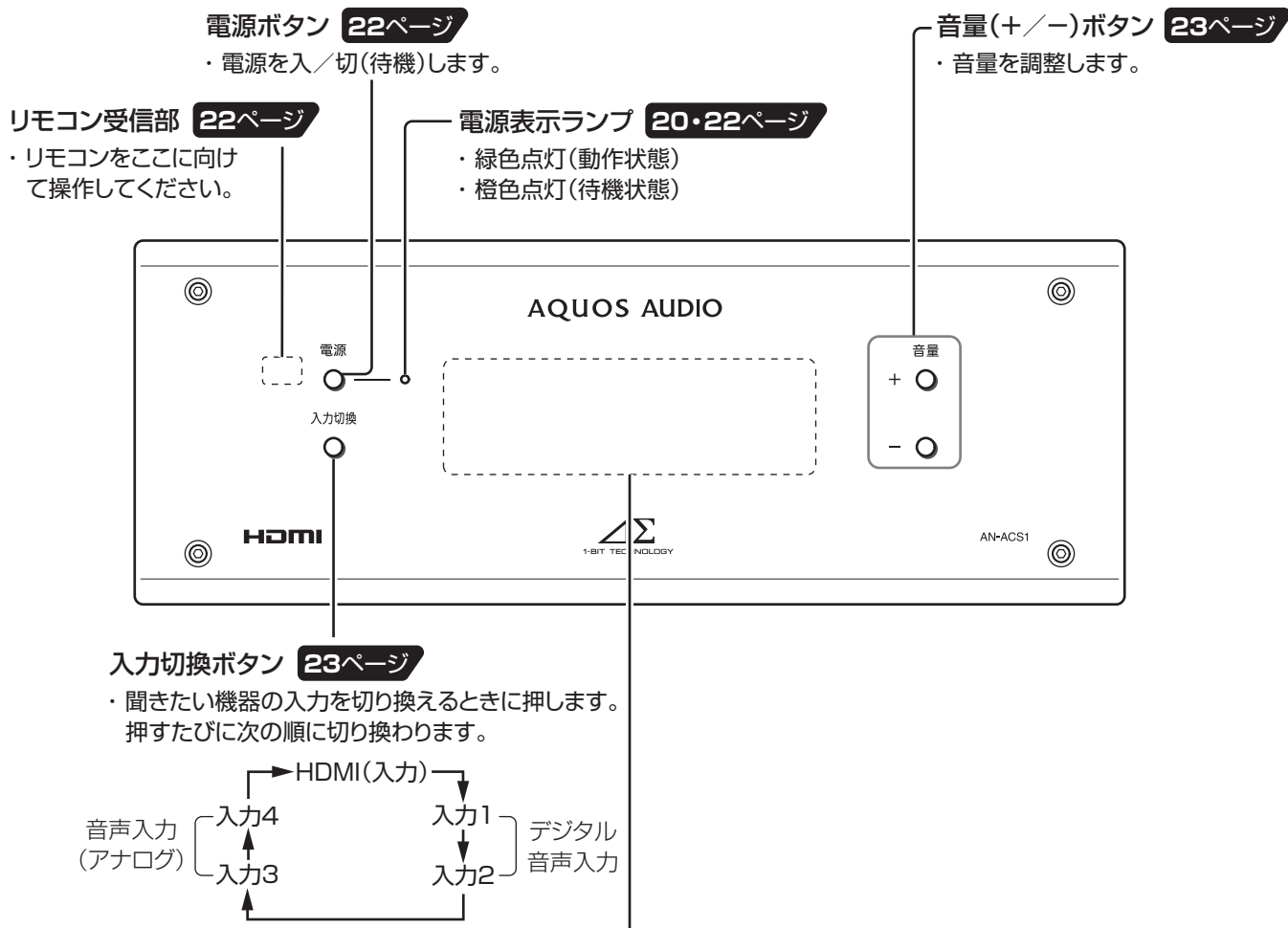
リモコン受信部 22ページ
・リモコンをここに向けて操作してください。

電源表示ランプ 20・22ページ
・緑色点灯（動作状態）
・橙色点灯（待機状態）

AQUOS AUDIO
電源
入力切換
音量
＋
－
HDMI
1-BIT TECHNOLOGY
AN-ACS1

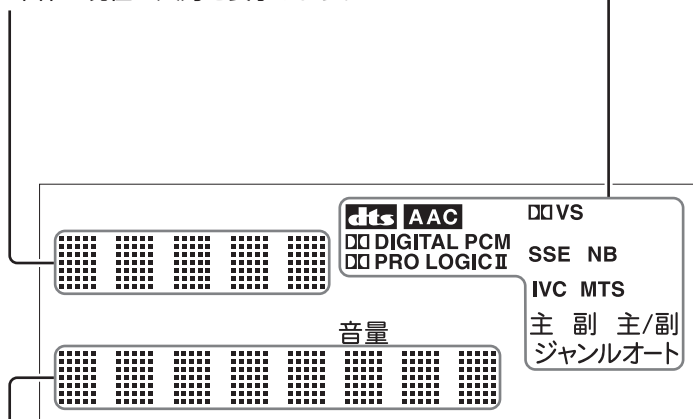
入力切換ボタン 23ページ
・聞きたい機器の入力を切り換えるときに押します。押すたびに次の順に切り換わります。

HDMI（入力）→ 入力1 → 入力2 → 入力3 → 入力4 → HDMI（入力）
入力1・入力2：デジタル音声入力
入力3・入力4：音声入力（アナログ）

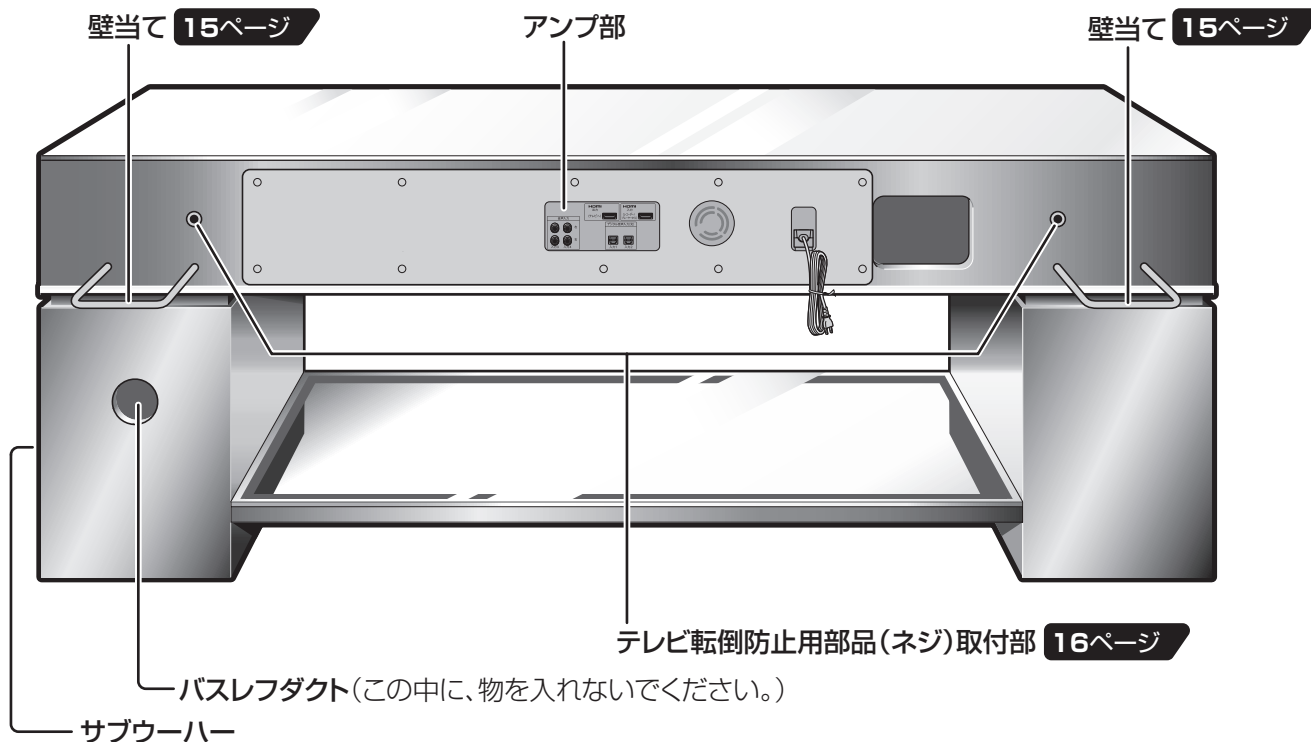
表示部

入力切換や音量調整、サウンドモード、サブウーハーのレベル調整、消音モードなど本機の設定を表示します。

表示部（上段）（入力表示） 23ページ
・本体の現在の入力を表示します。

入力信号や設定内容にあわせて点灯します。

・入力した信号にあわせて点灯します。 30ページ
　dts、**AAC**、**DD DIGITAL**、**PCM**
・ドルビープロロジックII動作時に点灯します。 30ページ
　DD PRO LOGIC II
・ドルビーバーチャルスピーカー使用時に点灯します。 28ページ
　DD VS
・オーディストリー使用時に点灯します。 29ページ
　SSE ……ワイド感拡張（サウンドスペース）
　NB ……低音強調（ナチュラルバス）
　IVC ……快適音量（インテリジェントボリューム）
　MTS ……モノラル ▶ステレオ（モノーステレオ）
・音声多重放送の音声モードの設定内容が表示されます。 24ページ
　主、副、主/副
・ジャンル設定機能の使用時に点灯します。 33ページ
　ジャンルオート

表示部（下段）（音量／サウンドモード） 24・26ページ
・サウンドモードや音量、サブウーハーレベル、ドルビーバーチャルスピーカー、オーディストリーなど、各設定の内容が表示されます。

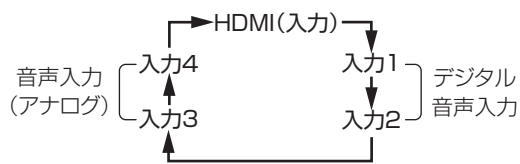
各部のなまえとはたらき（つづき）

背　面

壁当ては取り付けが必要です。

取り付けかた→15ページ

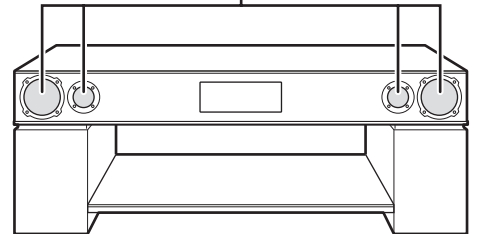
アンプ部

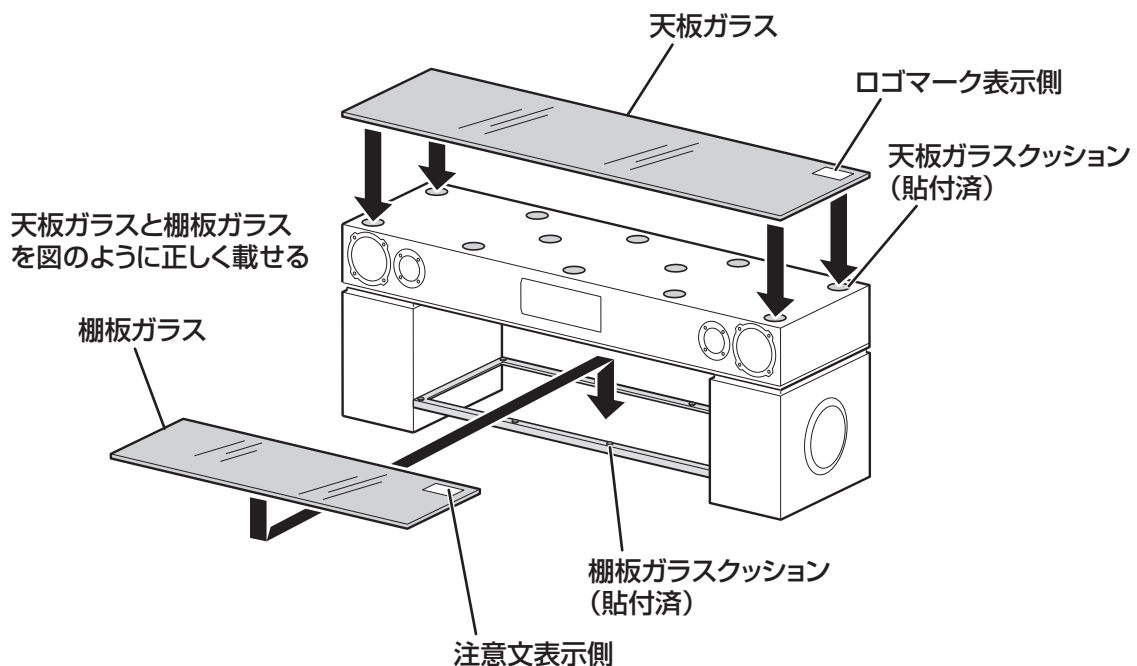
リモコン

リモコン送信部
音量ボタン 23・24ページ
・音量を調整するときに押します。
電源ボタン 22ページ
・電源を入／切（待機）します。
本体表示（ー設定）ボタン 24ページ
・表示部を点灯モードや消灯モードに切り換えるときに押します。
・HDMI設定を変更するときに押します。
消音ボタン 24ページ
・音を一時的に消すときに押します。
オーディストリーボタン 29ページ
・4つのモードの中から、お好みのモードを選ぶときに押します。
音声切換ボタン 24ページ
・音声多重放送の音声信号（主音声／副音声）を切り換えるときに押します。
入力切換ボタン 23ページ
・聞きたい機器の入力を切り換えるときに押します。押すたびに次の順に切り換わります。
HDMI（入力）
入力1
入力2
入力3
入力4
デジタル音声入力
音声入力（アナログ）
サブウーハーレベル調整ボタン 24ページ
・サブウーハーレベルの調整をするときに押します。
サウンドモードボタン 27ページ
・サウンドモードを切り換えるときに押します。
ドルビーバーチャルスピーカーボタン 28ページ
・ドルビーバーチャルスピーカーを入／切するときに押します。
電源
音声切換
入力切換
本体表示（ー設定）
音量
サブウーハーレベル
消音
サウンドモード
スタンダード
シネマ
ニュース
ミュージック 1/2
スポーツ 1/2
ナイト
ドルビーバーチャルスピーカー
ワイド感拡張
低音強調
快適音量
モノラル ▼ ステレオ
SHARP

本機やテレビなどを設置する

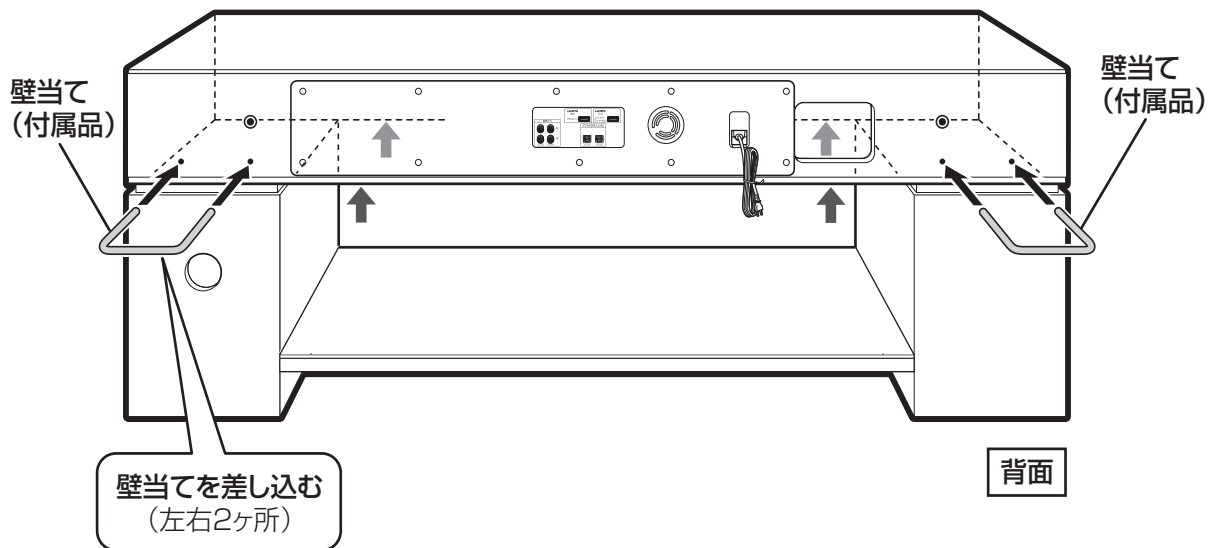
設置する前に

- 本機は非常に重いので、持ち運びなどの作業は必ず2人以上で行ってください。
  腰を痛めたり、けがや故障の原因となることがあります。
- 安全のために、手袋を着用してください。
- 使用する部品は、付属品について(3ページ)をご覧ください。

- 床などにキズをつけないよう十分気をつけてください。
- 製品を移動するときや設置するときは、前面のスピーカーネットに手などが触れないようにしてください。
  スピーカーネットやスピーカーの破損の原因となります。
- 本機をぐらついた台の上や不安定な場所に置かないでください。
  落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続線など外部の接続コード、テレビの転倒防止具をはずしたことを確認のうえ、行ってください。
  落下や転倒など思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機の上にテレビやその他の機器を載せたまま移動しないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- ガラスは強化ガラスを使用していますが、尖った物を落としたりぶつけたりすると、割れることがありますのでご注意ください。

天板ガラスと棚板ガラスを載せる

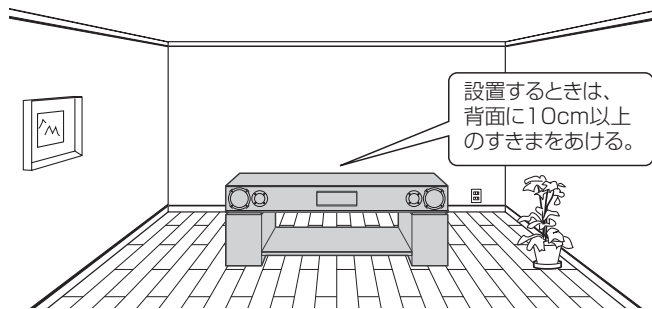
- この作業は、2人以上で行ってください。
- 天板ガラス／棚板ガラスは固定されません。
- 天板ガラス／棚板ガラスを載せたあと、本機を移動するときは傾けないでください。
  ガラスが落下してけがの原因になることがあります。

壁当てを取り付ける

1 壁当てを天板部の後面（左右2ヶ所）に差し込む

• 壁当てで本機の背面と壁との間にすき間をつくります。
　接続する機器のケーブルなどを保護するためです。

• 壁当ての部分を持って、持ち運びを行わないでください。
• 持ち運びする場合は、天板部の下側の⬆マークの部分を持ってください。
• 棚板ガラスを載せる金属フレームの部分を持って、持ち運びを行わないでください。

1 本機を部屋に設置する

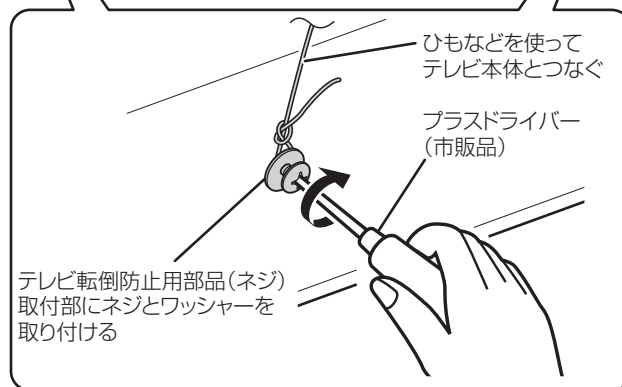
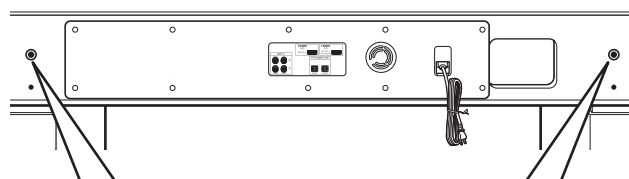
• テレビやレコーダーなどを設置したり、接続したりするときの作業スペースを確保のうえ、本機を設置してください。

• 設置するときは、２人以上で行い、傾けないように移動してください。
天板ガラスや棚板ガラスが落下してけがの原因になることがあります。

2 テレビやレコーダーなどを設置する

• テレビは本機の中央に載せてください。
天板耐荷重：約100kg（AN-ACR1）／約80kg（AN-ACS1）
棚板耐荷重：約25kg

3 テレビの転倒防止策をする

• 不意の地震のときや、お子様がテレビや本機に登ったり、ぶらさがったり、揺すったりすると、倒れてけがをする恐れがあります。ご使用のテレビの取扱説明書をご覧のうえ、転倒防止策の実施をお願いします。
• 本機背面にテレビ転倒防止用部品（ネジ）取付部が左右２ヶ所あります。
この部分に付属品のネジとワッシャーを取り付け、市販品の丈夫なひもなどを使って、テレビ本体とつないでください。
より安全な設置をすることができます。

背面アンプ部

防磁対応について

フロントスピーカーは、防磁対応されています。
ただし、使うテレビによっては、テレビ画面に色ムラが生じることがあります。

テレビ画面に色ムラがおきたら…

いったんテレビの電源を切り、15〜30分後に再び電源を入れてください。

それでも色ムラが残るときは…

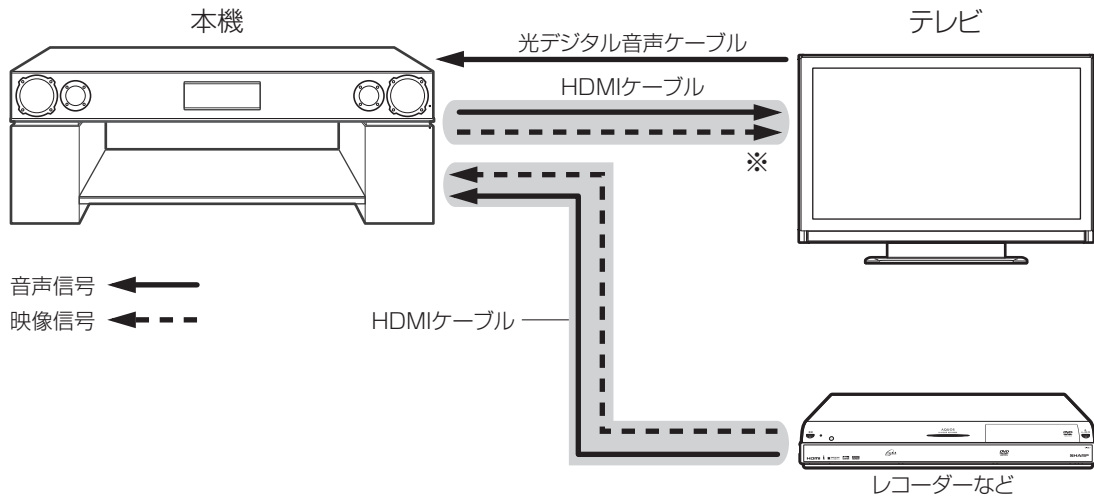
テレビの位置を少し変えてみてください。
近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビ画面に色ムラが生じることがありますので、設置にご注意ください。

• サブウーハーは、防磁対応ではありません。

テレビやレコーダーなどを接続する

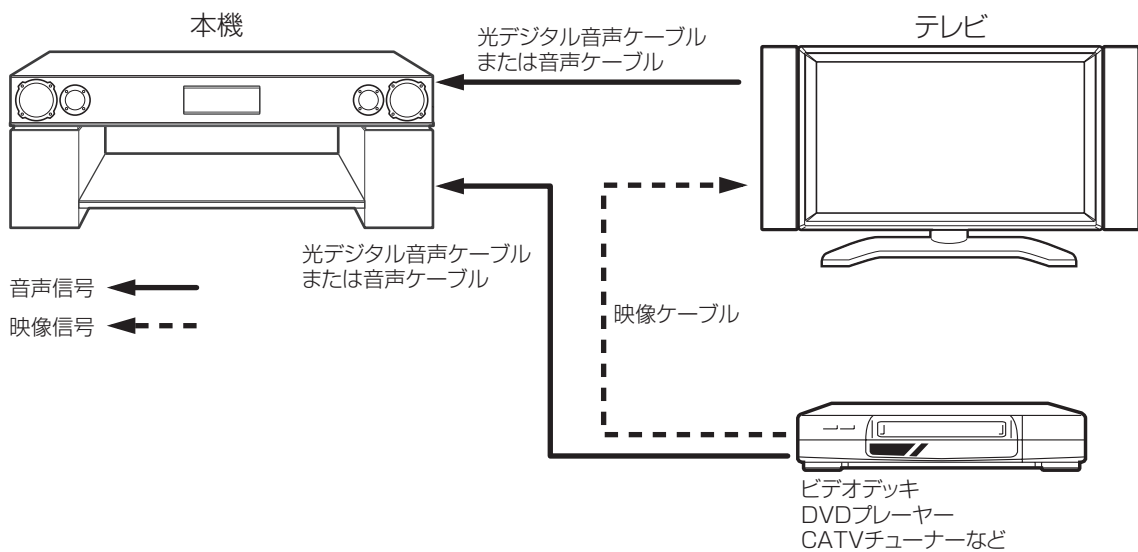
■ 接続するときは、それぞれの機器の電源コードを抜いてから行ってください。
　また、それぞれの機器の取扱説明書もよくご覧ください。
■ 本機には、外部スピーカーを接続することはできません。
■ 下図は本機を使用した場合の音声または映像信号の流れを表しています。

具体的な接続方法は、18〜19ページをご覧ください。

HDMI端子がある機器と接続した場合の信号の流れ

※本機の入力切換が HDMI 以外のときは、レコーダーなどの音声をテレビで聞くことはできません。

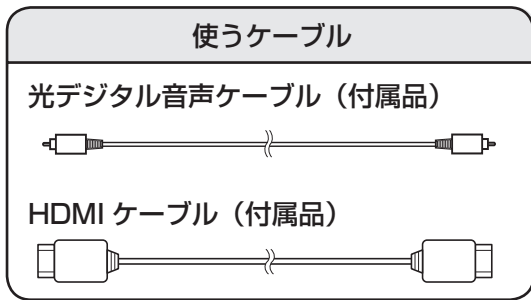
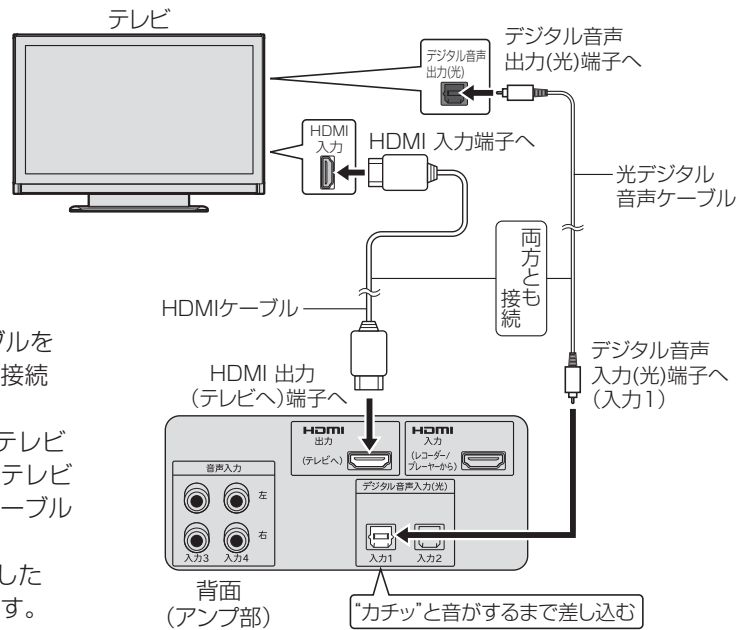
ファミリンク機能

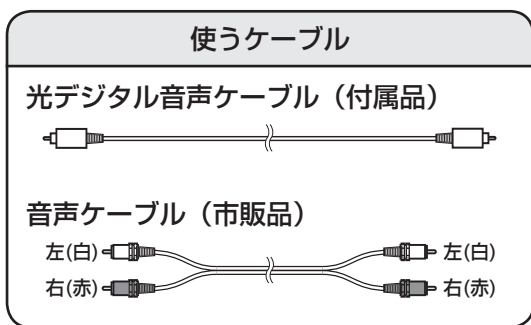
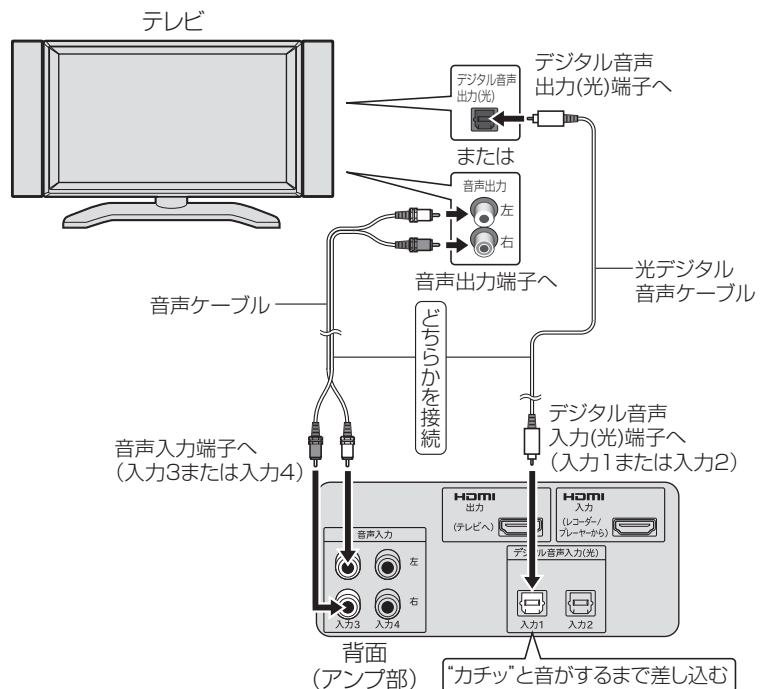
HDMI CEC(Consumer Electronics Control) 対応のアクオスやデジタルハイビジョンレコーダーなどの機器と接続することで、これらの機器が相互に連携し動作する機能です。
（本機のファミリンク機能を正しくお使いいただくために、31〜37ページを参照してください。）

HDMI端子がない機器と接続した場合の信号の流れ

- 音声ケーブルは、抵抗の入っていないものをお買い求めください。
  抵抗の入っている音声ケーブルを使うと音が小さくなります。

HDMI端子があるテレビを接続する

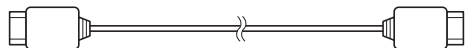
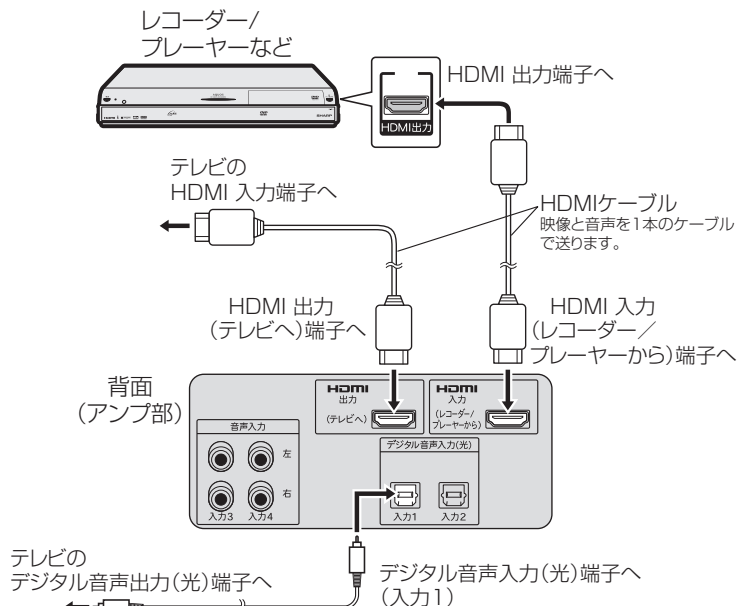
光デジタル音声ケーブルと**HDMIケーブル**の両方を使ってテレビと接続します。

ファミリンク機能(**31～37**ページ)を使用する場合は、テレビの音声を入力1に接続してください。
入力2に接続している場合、手動で入力2に切り換えてください。

- 光デジタル音声ケーブルやHDMIケーブルを使用する前に、保護キャップを取り外し接続してください。
- HDMIケーブルの接続だけでは、本機でテレビの音声を聞くことはできません。本機でテレビの音声を聞く場合は、光デジタル音声ケーブルをつないでください。
- HDMI CEC対応のアクオスなどを接続した場合は、ファミリンク機能が使用できます。(**31～37**ページ)

HDMI端子がないテレビを接続する

光デジタル音声ケーブルを使ってテレビと接続します。
テレビにデジタル音声出力端子がないときは、**音声ケーブル**(アナログ)で接続します。

- 光デジタル音声ケーブルを使用する前に、保護キャップを取り外し接続してください。
- 音声ケーブルでテレビと接続している場合、音声多重放送をお聞きになるときは、テレビのリモコンで音声を切り換えてください。

HDMI端子がある機器(レコーダー／プレーヤーなど)を接続する

HDMIケーブルを使ってレコーダー／プレーヤーなどと接続します。

使うケーブル

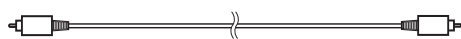
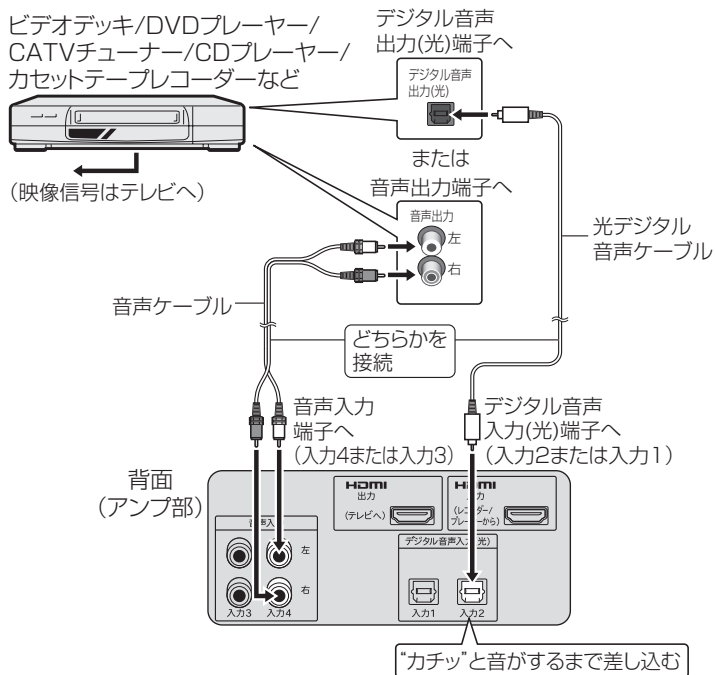
HDMI ケーブル（付属品または市販品）

- HDMIケーブルを使用する前に、保護キャップを取り外し接続してください。
- HDMI CEC対応のアクオスやデジタルハイビジョンレコーダーなどを接続した場合は、ファミリンク機能が使用できます。（**31～37**ページ）
- 市販品のHDMIケーブルをお使いになるときは、より安定した動作や画質劣化などの防止のため、3m以下のケーブルによる接続をおすすめします。

HDMI端子がない機器(ビデオデッキやDVDプレーヤーなど)を接続する

光デジタル音声ケーブルや**音声ケーブル**を使ってビデオデッキなどと接続します。

使うケーブル

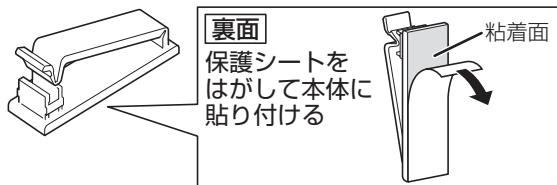
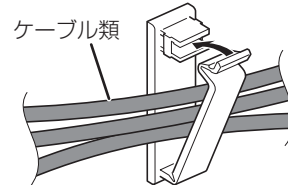
光デジタル音声ケーブル
（付属品または市販品）

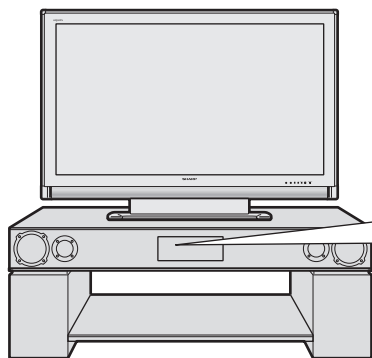
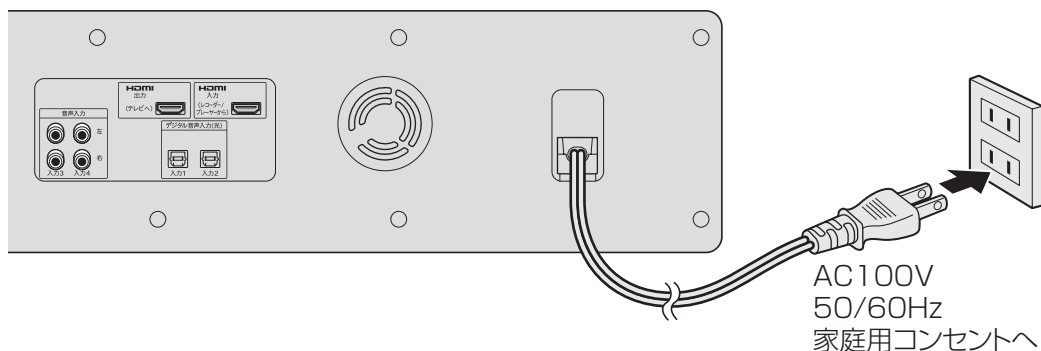
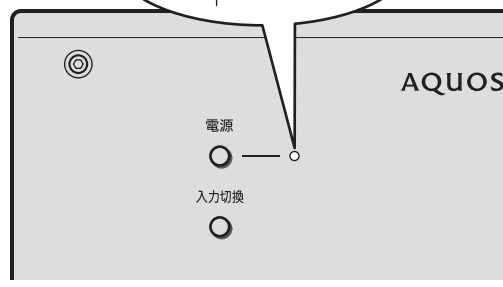
音声ケーブル（市販品）

左(白)　　左(白)
右(赤)　　右(赤)

- 光デジタル音声ケーブルを使用する前に、保護キャップを取り外し接続してください。
- ビデオデッキなどの映像信号は、テレビに直接つないでください。（接続方法は、ビデオデッキなどの取扱説明書をご覧ください。）

電源を接続する

電源を接続する前に・・・

本機背面アンプ部の端子につないだケーブル類は、付属品のケーブルクランプを使って配線すると、すっきりまとめることができます。
必要に応じてご使用ください。

①ケーブルクランプを本体に貼り付ける　②ケーブルを固定する

各機器の接続が終わったら、最後に電源プラグを家庭用コンセントに差し込んでください。

背面アンプ部

- それぞれの機器の電源プラグを差し込むときは、テレビの電源プラグを最後に差し込んでください。
- HDMI ケーブルの抜き差しや接続方法を変えた場合は、全ての機器の電源を入れた状態でテレビの電源を入れ直してください。

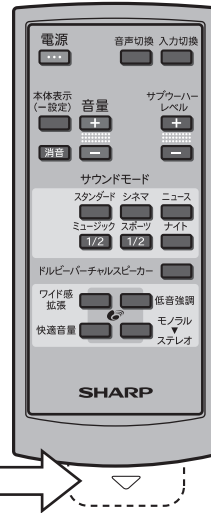
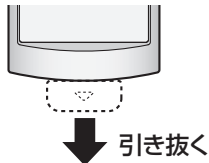
節電のために

旅行などで長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。電源を切っていても、多少ですが電力を消費しています。

- 電源プラグを抜くときは、電源を切ってからプラグを持って抜いてください。線を引っ張ると断線の原因となります。

- HDMI設定モードをOFFにすると（**34**ページ）、電源を切ったときの電源表示ランプは赤色に点灯します。

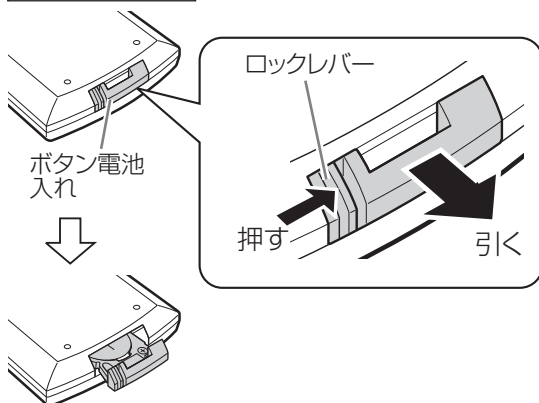
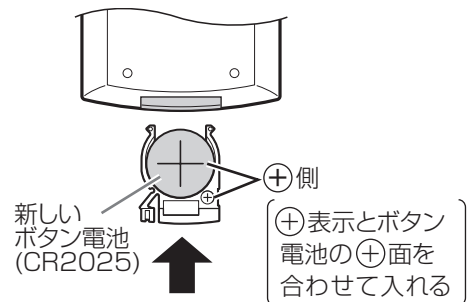
リモコンの電池について

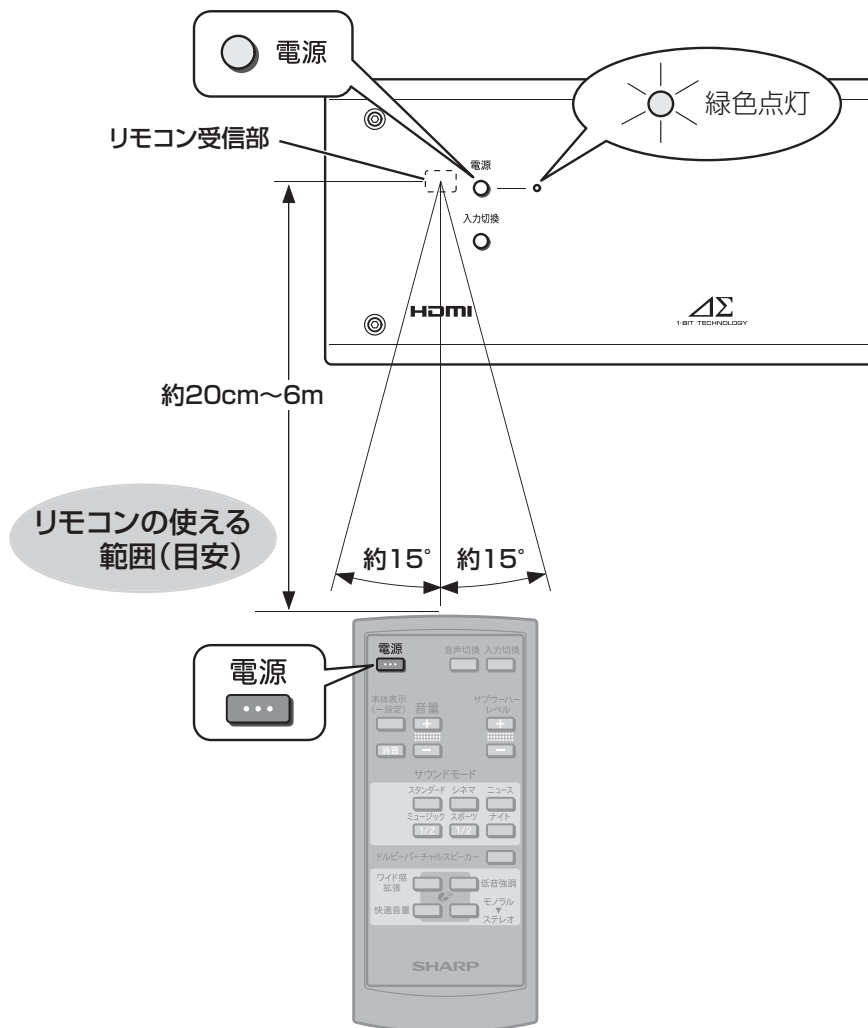
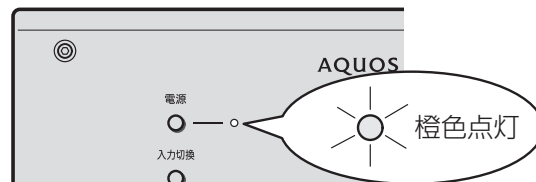
リモコンの保護シートを取り外す

リモコン用電池の交換時期は？

通常のご使用で約1年です。

リモコン受信部に近よらないと動作しなくなったときは、電池を交換してください。

リモコンのボタン電池の交換のしかた

1 ロックレバーを右に押したまま、「ボタン電池入れ」を引き出す

2 新しい「ボタン電池」(CR2025)に交換したあと、「ボタン電池入れ」をリモコンに戻す

電源を入れる

1 電源（本体）または 電源（リモコン）を押す

2 電源を切るには…
もう一度、電源（本体）または 電源（リモコン）を押す

橙色点灯：ＨＤＭＩ　ＯＮ設定のとき
赤色点灯：ＨＤＭＩ　ＯＦＦ設定のとき
（34ページ）

- 電源が入らないときは、電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、またはリモコンにボタン電池が正しく入っているか確認してください。
- リモコン受信部に強い光があたる場所では使用しないでください。
  誤動作の原因となります。
- リモコン受信部や送信部にシールなどを貼ったり、本体とリモコンの間には障害物などを置かないでください。
  リモコンの操作ができなくなります。
- リモコン受信部や送信部にほこりがたまると、動作しにくくなることがあります。やわらかい布でふきとってください。
- 電源を入れて約8秒後から音を出すことができます。
- 電源を切ったあとの2～3秒は、すぐに電源が入りません。

テレビやDVD、ビデオなどの音を聞く

1 電源 **を押して、本機の電源を入れる**

2 入力切換 **をくり返し押して、聞きたい機器の入力を選ぶ(表示部の上段に表示が出た後、操作してください)**

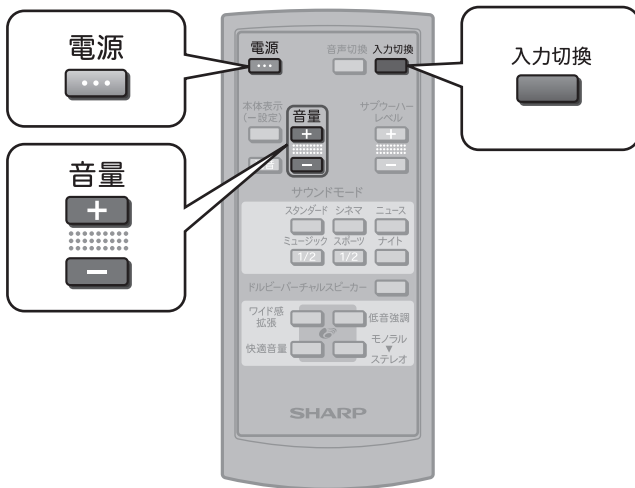
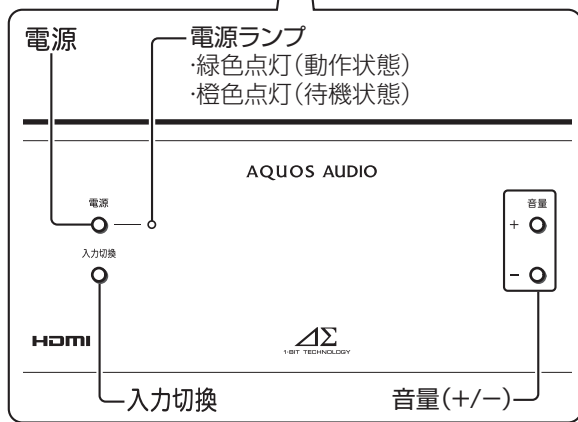
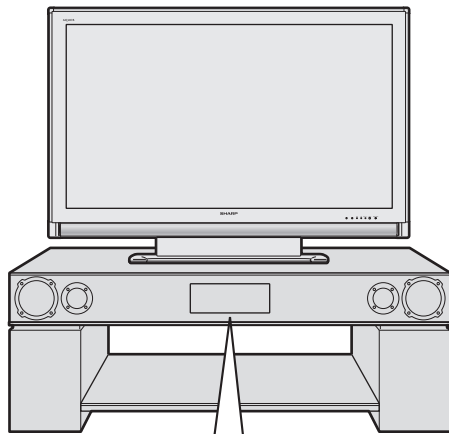
• 次の順に切り換わります。

3 聞きたい機器を再生する

4 音量 **を押して、音量を調整する(24ページ)**

5 サラウンドやいろいろな音質を楽しむ(25～29ページ)

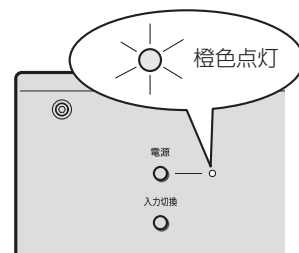
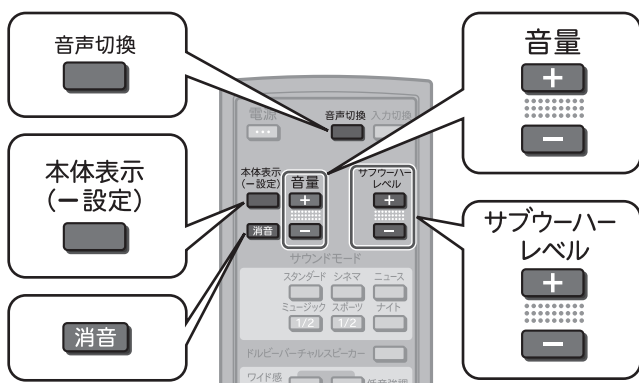
聞き終えたら

電源 **を押して、電源を切る**
(音量を下げたあと、電源を切ってください。)

音のエチケットについて

• 楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。
ご近所のご迷惑にならないよう、十分気をつけましょう。
• 夜間にお使いになるときは、ご近所のご迷惑にならないよう、音量を小さくしてお楽しみください。

音量などを調整する

音量を調整するには

を押す

調整範囲 :0(小)〜40(大)
初期設定値:20

サブウーハーの音量レベルを調整するには

サブウーハーから聞こえる音の大きさを調整します。

を押す

約3秒表示

調整範囲 :−8〜+8
初期設定値:0

- サブウーハーの音が大きすぎて歪むときは、サブウーハーのレベルを下げてください。

音声を切り換えるには

音声多重放送を見ているとき、主音声と副音声を切り換えることができます。

音声切換 を押す

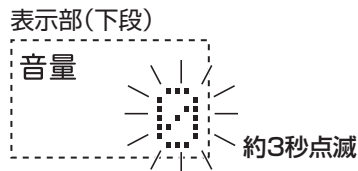
- 押すたびに次の順に切り換わります。

主(主音声)→副(副音声)→主/副(主音声+副音声)

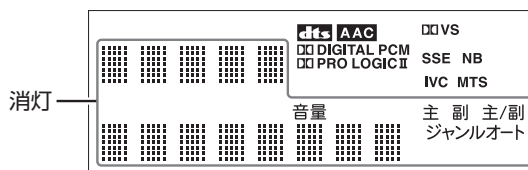
表示部
主

- 接続している機器のデジタル音声出力設定をAACにしてください。PCMでは機能しません。

一時的に音を消すには

消音 を押す

- もう一度押すと、もとの音量に戻ります。
- 他のボタン操作をしても、消音モードは解除されます。ただし、入力切換や音声切換、表示切換の操作をしたときは、解除されません。
- 電源を切って入れ直すと、消音モードは解除されます。

表示部を消灯モードにするには

本体表示(ー設定) を押す

- 表示部が消灯します。
- DVS、オーディストリーが設定されている場合、サウンドモードを示すアイコンは、消灯モードのときも点灯します。
- 消灯モードのときにボタン操作を行うと、現在の設定を約3秒表示したあと、消灯します。

デモ表示にするには

電源が入っていないとき、表示部が自動的に点灯し、いろいろな表示内容に変わることをデモ表示と呼びます。

デモ表示にするには:

電源OFF時に本体の ◯ 入力切換 を3秒以上押す。

- 表示部に“デモ ON”の文字が点灯し、いろいろな表示内容に変わります。
- 電源を入れると、通常の表示になります。電源を切ると、再度デモモード表示に戻ります。

デモ表示をやめるには:

デモ表示中に、本体の ◯ 入力切換 を3秒以上押す。

- 表示部に“デモ OFF”の文字が点灯し、そのあと消灯します。

サラウンドやいろいろな音質を楽しむ

プリセットサウンドモードで楽しむ

8種類のモードの中からお好みの音場を手がるに選べます。

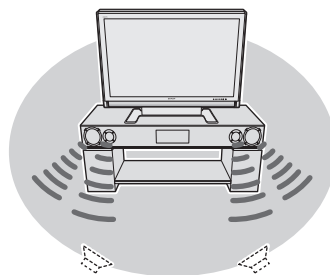
26～27ページ

- スタンダード
- シネマ
- ニュース
- ミュージック1
- ミュージック2
- スポーツ1
- スポーツ2
- ナイト

ドルビーバーチャルスピーカー

2つのスピーカーとサブウーハー(2.1ch)のシステムでサラウンド再生が楽しめます。

28ページ

2.1chのシステムで5.1chのような立体的な広がりのあるサウンドを楽しむことができます。

オーディストリー

4つの機能を単独あるいは、組み合せて、お好みのサウンドを楽しめます。

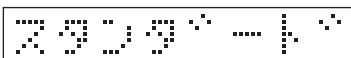
29ページ

- **ワイド感拡張**（サウンドスペース）
- **低音強調**（ナチュラルバス）
- **快適音量**（インテリジェントボリューム）
- **モノラル ▶ ステレオ**（モノーステレオ）

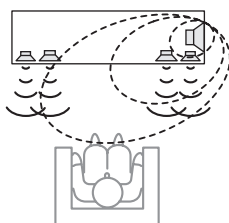
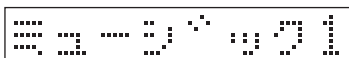
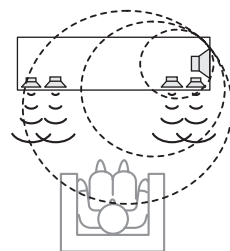
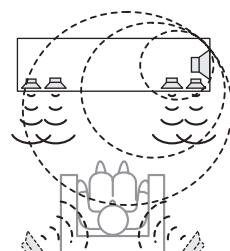
サラウンドやいろいろな音質を楽しむ（つづき）

プリセットサウンドモードと音のイメージ

表示部（下段）

スタンダード

標準の再生音で楽しめます。

表示部（下段）

ミュージック1

2.1chで広がりのある音を
楽しめます。

5.1chのようなサラウンド
効果音を楽しめます。

低音のレベルが強調され、歯切れの良いメリハリのある音を楽しめます。

音楽などに適したモードです。

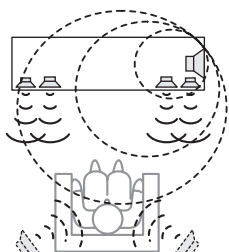
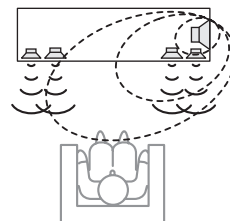
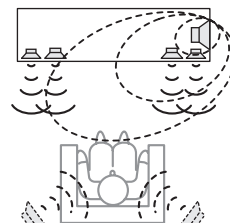
表示部（下段）

シネマ

低音のレベルが強調された迫力のある音とともに、5.1chのような広がりのある音場を楽しめます。

映画などに適した
モードです。

表示部（下段）

スポーツ1

2.1chで広がりのある音を
楽しめます。

5.1chのようなサラウンド
効果音を楽しめます。

解説の声は中央に定位し、歓声や場内などの周囲の雰囲気をそこなうことなく楽しめます。

野球やサッカーなどのスポーツ中継に適したモードです。

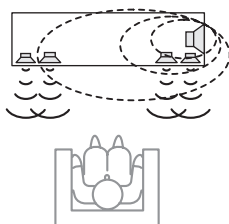
表示部（下段）

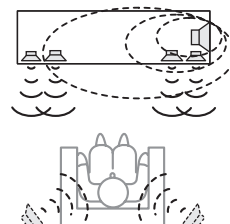
ニュース

解説などの声に厚みを持たせて、小音量にしても聞きとりやすい音になります。

ニュースなどに
適したモードです。

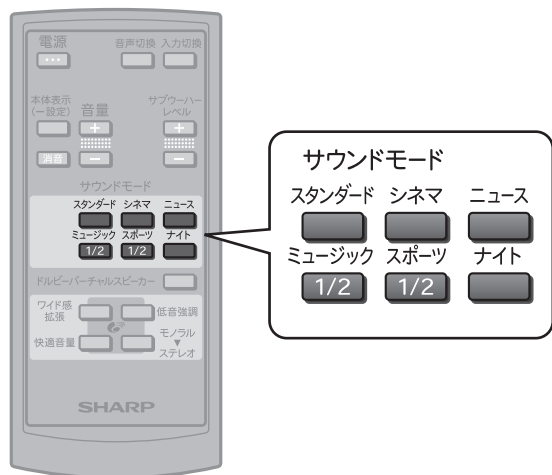
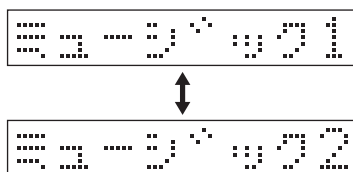
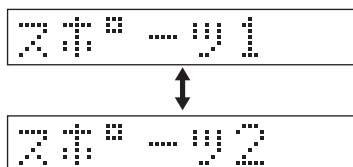
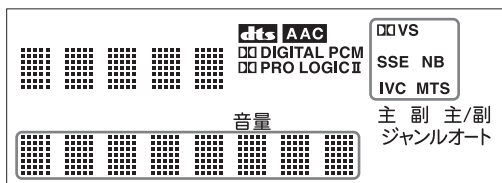
表示部（下段）

ナイト

セリフが聞きとりやすく、大きな音が抑えられるため、小音量にしても、5.1chのような広がりのある音場を楽しめます。

映画などの音を深夜に
小音量で聞くときに
適したモードです。

- それぞれのプリセットサウンドモードのサブウーハーの音量レベルは、推奨のレベル値にあらかじめ設定されています。
- サブウーハーの音量レベル調整（**24**ページ）は、それぞれのプリセットサウンドモード毎に設定することができます。
  お買いあげ時の状態に戻したいときは、〈リセット操作〉（**40**ページ）を行ってください。

プリセットサウンドモードを選んで聞くには

■ 最適な音質となるように、推奨するレベル値に調整された8種類のプリセットサウンドモードの中から、お好みのサウンドモードを選んで楽しめます。

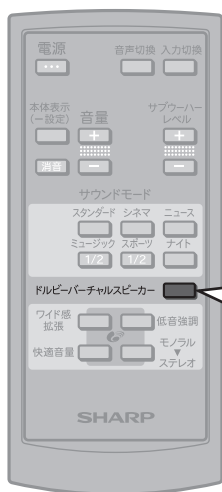
聞きたいサウンドモードボタンを押す

• ミュージック1とミュージック2の選択：
ミュージック 1/2 をくり返し押して選びます。

• スポーツ1とスポーツ2の選択：
スポーツ 1/2 をくり返し押して選びます。

サウンドモードによって、表示部の点灯表示がかわります。（下表をご覧ください。）

プリセットサウンドモードの種類	表示部下段のモード表示	ドルビーバーチャルスピーカー **VS**	サウンドスペース **SSE**	ナチュラルバス **NB**	インテリジェントボリューム **IVC**	モノ▶ステレオ **MTS**
スタンダード	スタンダード	―	―	―	―	―
シネマ	シネマ	○	―	○	―	―
ニュース	ニュース	―	―	―	○	―
ミュージック1	ミュージック1	―	○	―	―	―
ミュージック2	ミュージック2	○	―	―	―	―
スポーツ1	スポーツ1	―	○	―	○	―
スポーツ2	スポーツ2	○	―	―	○	―
ナイト	ナイト	○	―	○	○	―

○：マーク点灯
―：マーク消灯

ドルビーバーチャルスピーカー(DVS)で聞く

■ ドルビーバーチャルスピーカー(DVS)は、2.1chスピーカーで5.1chを鳴らしたときと同じような響きのある立体的な仮想サラウンドを楽しむことができるシステムです。
2chのステレオ信号でもDVSを「ON」にすると、ドルビープロロジックⅡ(**30**ページ)が働いて、5.1chに変換された信号をもとに、仮想サラウンドの効果を得ることができます。

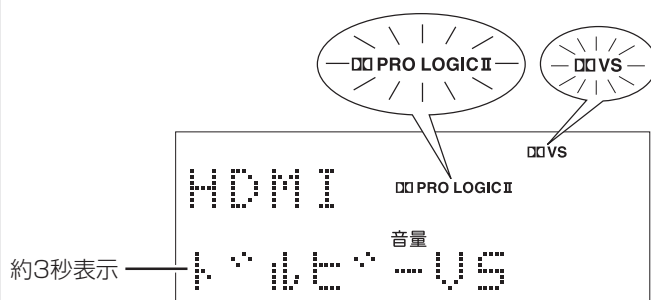
ドルビーバーチャルスピーカー ▭ を押す

押すたびに「ON」「OFF」が切り換わります。

- DVSを「ON」にすると、プリセットサウンドモードの設定と、オーディストリー(ワイド感拡張モード、モノラル▶ステレオモード)の設定は解除されます。(オーディストリーの低音強調モードと快適音量モードの設定は、解除されません。)
- モノラル信号では、サラウンド効果を得ることはできません。
- 入力信号の種類によっては、DVSが働かないことがあります。
(例:音声多重などの信号のとき)
そのときは、表示部の**DD VS**が点滅し、DVSの効果は得られません。DVSを「OFF」にしてください。

ON時

ドルビーバーチャルスピーカーが働き、マルチチャンネルのような立体的な広がりのあるサラウンド効果音を楽しめます。

シネマモードにくらべて、低音のレベルを少し抑えた感じになります。

2chのステレオ信号のときは、
DD PRO LOGICⅡ も点灯します。

•「ON」のときは、表示部の**DD VS**が点灯し、表示部下段に「ドルビーVS」が約3秒表示されます。

OFF時

ドルビーバーチャルスピーカーの動作が解除されます。

ドルビーバーチャルスピーカーが「OFF」のときは、プリセットサウンドモード(**26**〜**27**ページ)やオーディストリー(**29**ページ)を使って、いろいろな音を楽しむことができます。

オーディストリー(Audistry)のサウンドを楽しむ

■ 4つのモードをそれぞれ単独あるいは組み合わせて、お好みのサウンドをお楽しみください。

聞きたいモードのボタンを押す

- 表示部の表示が切り換わります。
- もう一度押すと解除できます。

ワイド感拡張 — **ワイド感拡張**(サウンドスペース)**を選ぶとき**

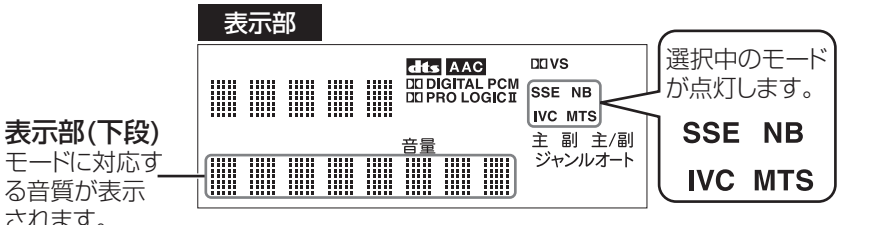
低音強調 — **低音強調**(ナチュラルバス)**を選ぶとき**

快適音量 — **快適音量**(インテリジェントボリューム)**を選ぶとき**

モノラル▼ステレオ — **モノラル ▶ステレオ**(モノーステレオ)**を選ぶとき**

表示部

表示部(下段) モードに対応する音質が表示されます。

選択中のモードが点灯します。
SSE NB IVC MTS

ワイド感拡張 (サウンドスペース)

４つのスピーカーからワイドなステレオ感のある音を楽しめます。

点灯表示 **SSE** 表示部(下段) 約3秒表示

低音強調 (ナチュラルバス)

システムの低域特性を最大限に生かした低音を楽しめます。

点灯表示 **NB** 表示部(下段) 約3秒表示

快適音量 (インテリジェントボリューム)

音の大きな場面では音量を下げ、音の小さな場面では音量を上げ、聞きやすい適切な音量感を実現します。

点灯表示 **IVC** 表示部(下段) 約3秒表示

モノラル▶ステレオ (モノーステレオ)

モノラルの音源をステレオ感覚で楽しむことができます。

点灯表示 **MTS** 表示部(下段) 約3秒表示

同時に設定可能な組み合わせ

○:有効 ×:無効

	ワイド感拡張	低音強調	快適音量	モノラル▶ステレオ
ワイド感拡張選択時		○	○	○
低音強調選択時	○		○	○
快適音量選択時	○	○		○
モノラル▶ ステレオ選択時	○	○	○	
DVS選択時	×	○	○	×

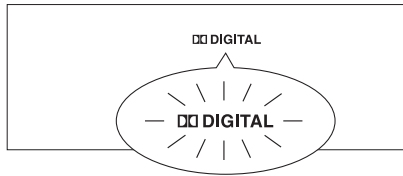
- オーディストリーの各モードを「ON」にすると、プリセットサウンドモードの設定は解除されます。
- ワイド感拡張モードやモノラル▶ステレオモードを「ON」にすると、DVSの設定も解除されます。(低音強調モードや快適音量モードを「ON」にしても、DVSの設定は解除されません。)
- 入力信号の種類によっては、ワイド感拡張モードやモノラル▶ステレオモードが働かないことがあります。(例:音声多重などの信号のとき)そのときは、サウンドスペース表示(**SSE**)、モノーステレオ表示(**MTS**)が点滅し、それぞれのモードの効果を得ることはできません。

各種デコーダーについて

■ この製品には、ドルビーデジタル方式･DTS方式･デジタル放送のAAC方式に対応した各種デコーダーを搭載しています。

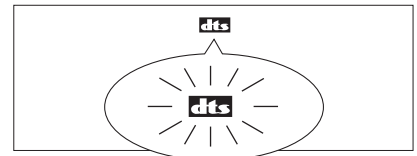
DOLBY DIGITAL（ドルビー デジタル）

劇場向けデジタル音声システムの1つです。
本機では、このドルビーデジタル方式の音を楽しむことができます。

表示部

・ ドルビーデジタル方式の信号が入力されると点灯。

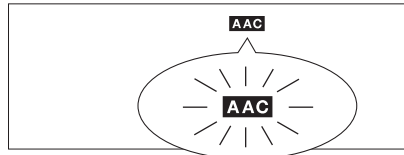
DTS(Digital Theater Systems)（デジタル シアター システムズ）

劇場向けデジタル音声システムの1つです。
本機では、このDTS方式の音を楽しむことができます。

表示部

・ DTS方式の信号が入力されると点灯。

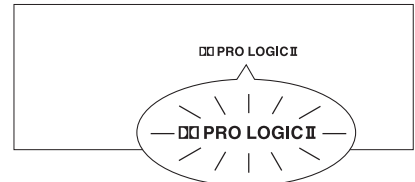
AAC(Advanced Audio Coding)（アドバンスド オーディオ コーディング）

BSデジタル放送に採用されているデジタル音声システムです。デジタルチューナーからの出力を光デジタル音声ケーブルを使って本機に接続したときは、高音質な音を楽しむことができます。

表示部

・ デジタル放送のAAC方式の信号が入力されると点灯。

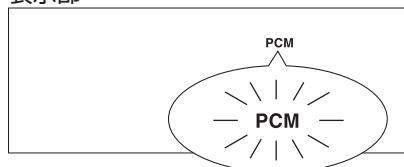
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ（ドルビー プロ ロジック）

2chステレオ音声を広がりのある音に拡張するシステムで、2chステレオ信号のとき、ドルビーバーチャルスピーカーを「ON」にすると、ドルビープロロジックⅡが働き、立体的な音響効果を楽しめます。

表示部

・ ドルビープロロジックⅡが働くと点灯。

PCM(Pulse Code Modulation)（パルス コード モジュレーション）

CDやDVDなどに採用されているデジタル音声信号の総称です。
本機では、CD や DVD などのデジタル音声を楽しむことができます。

表示部

・ PCM信号が入力されると点灯。

ファミリンクについて

ファミリンク機能*とは

■ HDMI CEC(Consumer Electronics Control)対応の当社製アクオスやデジタルハイビジョンレコーダーなどの機器と接続することで、これらの機器が相互に連携し動作する機能です。

■ アクオスのリモコン(またはデジタルハイビジョンレコーダーのファミリンク対応リモコン)をアクオスに向けて操作することにより、本機の電源「入／切」や音量調整、消音、音声切換などを行うことができます。
また、アクオスやデジタルハイビジョンレコーダーの動作に連動して、本機の入力切換が自動で切り換わります。
ただし、アクオスのファミリンク機能選択で、「AQUOSサラウンドで聞く」モードを選んでいない場合は、これらの機能は働きません。

＊製品によっては、ファミリンク機能の名称ではなく、HDMIコントロール機能という名称を使用しているものもあります。また、新製品など下表に該当しないファミリンク対応製品と組み合わせてご使用の場合は、操作方法や表示内容が本書に記載されている内容と異なる場合があります。

ファミリンクに対応している当社製製品（2007年3月現在）

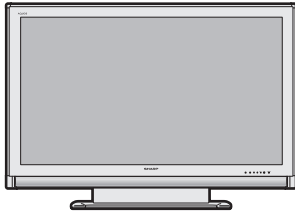
アクオス	LC-65RX1W、LC-52RX1W、LC-52GX1W、LC-52GX2W、LC-46RX1W、LC-46GX1W、LC-46GX2W、LC-42GX1W、LC-42GX2W、LC-37GS10、LC-37GS20、LC-37GX1W、LC-37GX2W、LC-37GH1、LC-37GH2、LC-32GS10、LC-32GS20、LC-32GH1、LC-32GH2、LC-32D10、LC-26D10
デジタルハイビジョンレコーダー	DV-ACW60、DV-ACW55、DV-ACW52、DV-ACW38、DV-AC55、DV-AC52、DV-AC34、DV-AC32、DV-ACV32
ブルーレイディスクプレーヤー	BD-HP1

※市販品のHDMIケーブルを使うときは、より安定した動作や画質劣化などの防止のため、3m以下のケーブルによる接続をおすすめします。

具体的な接続方法は、18〜19ページをご覧ください。

- ファミリンク機能を使うには、本機とアクオスやデジタルハイビジョンレコーダー、ブルーレイディスクプレーヤーなどをHDMIケーブルで接続する必要があります。
  ファミリンクに対応した当社製デジタルハイビジョンレコーダー、アクオス、ブルーレイディスクプレーヤーなどを直接接続してください。
- アクオスのリモコンやデジタルハイビジョンレコーダーのファミリンク対応リモコンをアクオスに向けて操作してください。本機やデジタルハイビジョンレコーダーなどは、ファミリンクのリモコン信号を直接受信しません。
- 詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

アクオスやレコーダーの音声を本機で聞くように設定する

アクオスのリモコンを使います

アクオスに向けて操作します。

アクオスのリモコン(例)

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

アクオスやレコーダーの音声を本機で聞くように設定する

アクオスのリモコン(またはデジタルハイビジョンレコーダーのファミリンク対応リモコン)で、アクオスと連動して本機の電源「入/切」や音量、消音、音声切換の操作ができるようになります。

1 電源 を押す

2 リモコンフタ内の 機能選択 を押す

• ファミリンク機能選択画面が表示されます。

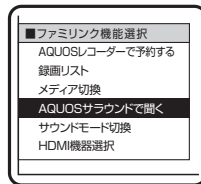
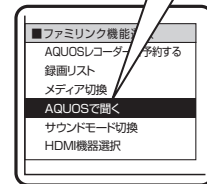
3 で「AQUOSサラウンドで聞く」を選び、 を押す

・「AQUOSサラウンドで聞く」モードになり、本機から音声が出ます。

アクオスの画面例

■ファミリンク機能選択
AQUOSレコーダーで予約する
録画リスト
メディア切換
AQUOSサラウンドで聞く
サウンドモード切換
HDMI機器選択

→

■ファミリンク機能選択
AQUOSレコーダーで予約する
録画リスト
メディア切換
AQUOSで聞く
サウンドモード切換
HDMI機器選択

おしらせ
• 表示は「AQUOSで聞く」に切り換わります。再度、アクオスで音声を聞く場合は「AQUOSで聞く」を選んで、決定を押してください。

4 リモコンフタ内の 機能選択 を押す

• ファミリンク機能選択画面が消えます。
• 画面が消えているときに押すと、画面が表示されますので、もう一度押して画面を消してください。

おしらせ
• ファミリンク動作時(「AQUOSサラウンドで聞く」モードの時)は、アクオスと本機の両方から同時に音を出すことはできません。

アクオスから音声を聞くように戻すには…

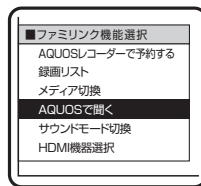
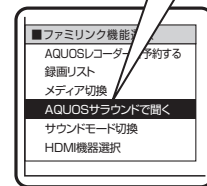
上記の手順3で「AQUOSで聞く」を選び、決定 を押します。

・「AQUOSで聞く」モードになり、アクオスから音声が出ます。

アクオスの画面例

■ファミリンク機能選択
AQUOSレコーダーで予約する
録画リスト
メディア切換
AQUOSで聞く
サウンドモード切換
HDMI機器選択

→

■ファミリンク機能選択
AQUOSレコーダーで予約する
録画リスト
メディア切換
AQUOSサラウンドで聞く
サウンドモード切換
HDMI機器選択

おしらせ
• 表示は「AQUOSサラウンドで聞く」に切り換わります。再度、本機で音声を聞く場合は「AQUOSサラウンドで聞く」を選んで、決定を押してください。

おしらせ
• 本機は消音モード状態になります。
• アクオスと本機は連動しなくなります。
• 本機の電源を切っていても、レコーダーの操作をすると電源が入る場合があります。

デジタル放送のテレビ番組ジャンル情報に合わせて、本機のサウンドモードが自動で切り換わるように設定する

アクオスの「ジャンル連動設定」を「する」に設定すると、デジタル放送などのジャンル情報があるテレビ番組を本機で聞いているとき、番組内容に合ったサウンドモードに自動的に切り換わります。

- ジャンル情報の詳細につきましては、**36** ページをご覧ください。

1 メニュー **を押す**

- メニュー画面が表示されます。

2 ▲▼◀▶ **で「機能切換」－「ファミリンク設定」を選び、**決定 **を押す**

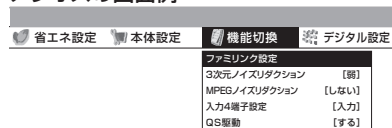
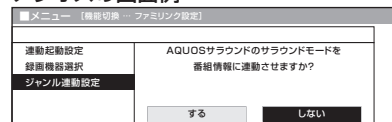
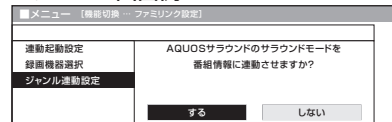
アクオスの画面例

省エネ設定　本体設定　機能切換　デジタル設定
ファミリンク設定
3次元ノイズリダクション　［弱］
MPEGノイズリダクション　［しない］
入力4端子設定　［入力］
QS駆動　［する］

3 ▲▼ **で「ジャンル連動設定」を選び、**決定 **を押す**

アクオスの画面例

■メニュー　［機能切換 … ファミリンク設定］
連動起動設定
録画機器選択
ジャンル連動設定
AQUOSサラウンドのサラウンドモードを
番組情報に連動させますか?
する　しない

4 ◀▶ **で「する」を選び、**決定 **を押す**

アクオスの画面例

5 メニュー **を押す**

- メニュー画面が消えます。

ジャンル連動設定を解除するには…

上記の手順4で「しない」を選び、決定 を押します。

デジタル放送のサラウンド番組を迫力ある音声で聞けるように設定する

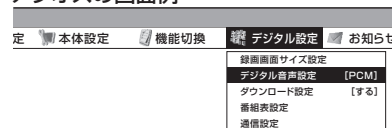
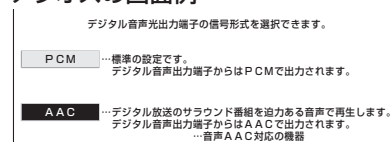
アクオスの「デジタル音声設定」を「AAC」に設定すると、デジタル放送のサラウンド番組があるテレビ番組を本機で聞いているとき、迫力ある音声で聞くことができます。

1 メニュー **を押す**

- メニュー画面が表示されます。

2 ▲▼◀▶ **で「デジタル設定」－「デジタル音声設定」を選び、**決定 **を押す**

アクオスの画面例

3 ▲▼ **で「AAC」を選び、**決定 **を押す**

4 メニュー **を押す**

- メニュー画面が消えます。

「PCM」に設定した状態では…

- 音声多重放送の受信中に、アクオスのリモコンでアクオスに向けて音声切換の操作をしたとき、アクオスの画面には「主」や「副」の切換表示がされて、本機で聞いている音声も同時に切り換わりますが、本機には何の切換表示もされません。
  このとき、本機で同時に切換表示をさせるには「AAC」に設定してください。

ファミリンク機能を使って

本機のリモコンを使います

レコーダーの映像や音声を楽しむときの設定

アクオスで見る映像と本機から出る音声のズレを軽減したいときは・・・

レコーダーを再生したときに、アクオスで見る再生映像と本機から聞こえる音声にズレがあると感じた場合には、音声の遅延設定を「ON」モードに設定してください。
本機から出る音声の出力を遅らせて映像とのズレを軽減させることができます。

お買い上げ時の状態：遅延設定「OFF」モード
設定するには：本機のリモコンを本機に向けて操作します

1 本体表示(一設定) を3秒以上押して、HDMI設定表示にする

表示部

MENU
HDMI ON

2 入力切換 を押して音声の出力遅延設定表示にする

DLY OFF

3 音量＋／－ でON/OFFモードを切り換える

- 音量＋ を押すと、「ON」モードに切り換わります。

DLY ON

- 音量－ を押すと、「OFF」モードに切り換わります。

DLY OFF

4 設定が完了したら、本体表示(一設定) を押す

本機の電源を切ったときも、レコーダーの映像や音声を楽しむ

お買い上げ時の状態は、本機の電源を切ったときに、アクオスでレコーダーの映像や音声を見たり聞いたり、コントロール可能な「HDMI ON」モードに設定されています。

音声をアクオスで聞きたいときは・・・
一時的に「AQUOSで聞く」モードに設定し、聞き終えたら、「AQUOSサラウンドで聞く」モードに再設定してください。(**32**ページ)

省待機電力モードにするには・・・

本機のHDMI設定を「HDMI OFF」モードに設定すると、本機の電源を切ったときに、アクオスでレコーダーの映像や音声を見たり聞いたり、コントロールすることはできなくなりますが、省待機電力モード(**41**ページ)にすることができます。

お買い上げ時の状態：「HDMI ON」モード
設定するには：本機のリモコンを本機に向けて操作します

1 本体表示(一設定) を3秒以上押して、HDMI設定表示にする

表示部

MENU
HDMI ON

2 音量＋／－ でON/OFFモードを切り換える

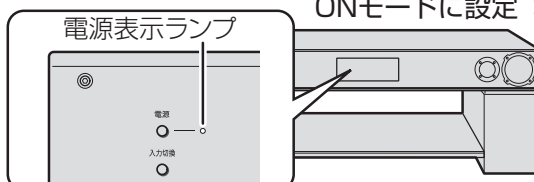
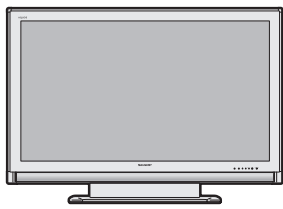
- 音量－ を押すと、「HDMI OFF」モードに切り換わります。

HDMI OFF

- 再度 音量＋ を押すと、「HDMI ON」モードに切り換わります。

HDMI ON

3 設定が完了したら、本体表示(一設定) を押す

- 電源を切ったときの電源ランプの状態
  OFFモードに設定：赤色点灯
  ONモードに設定　：橙色点灯

ファミリンク機能を使って
アクオスやレコーダーの音声を本機で聞く

アクオスのリモコンを使います

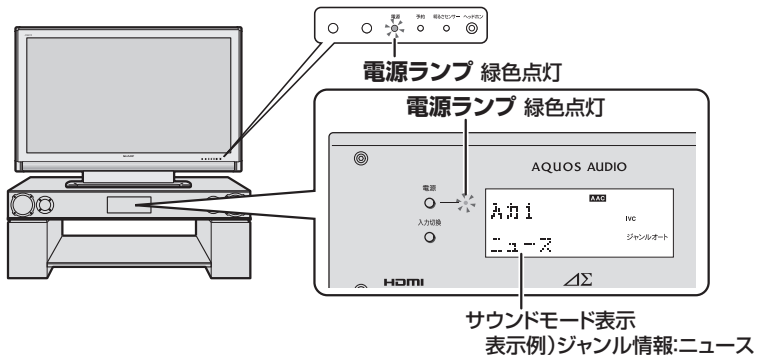
アクオスのリモコン(例)

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

アクオスの音声を本機で聞く

1 電源 **を押す**

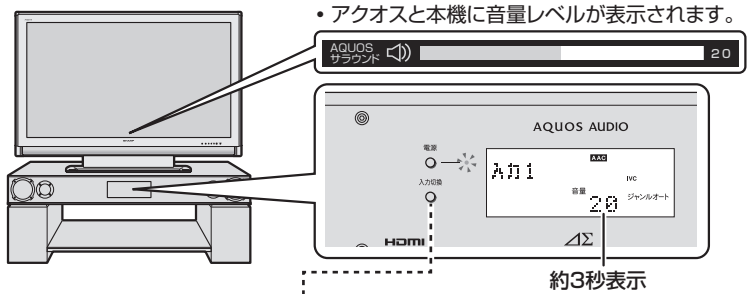
- アクオスに連動して本機の電源が自動で入ります。
- 本機の入力切換が自動で「入力1」になります。
- デジタル放送のテレビ番組ジャンル情報に連動して、本機のサウンドモードが自動で切り換わります。

(「ジャンル連動設定」を「する」に設定している場合… **33** ページ参照)

レコーダーの音声を聞く場合は…

入力切換 **を押して、アクオスの HDMI 入力に接続されている「レコーダー」の入力を選ぶ**

- 本機の入力切換が自動でＨＤＭＩになります。

2 **を押して、音量を調整する**

- アクオスと本機に音量レベルが表示されます。

- 入力2〜4に接続した他の機器の音声を聞きたいときは、本機の「入力切換」ボタンで聞きたい機器の入力を選んでください(**23**ページ)。
  本機の電源「入/切」や音声調整、消音などはアクオスに連動し操作できます。
- 他の機器の音声を聞いていた状態で電源を切り、アクオスの電源を入れるとアクオスに連動し入力が切り換わります。

聞き終えたら

電源 **を押して、電源を切る**

- アクオスに連動して本機の電源も自動で切れます。

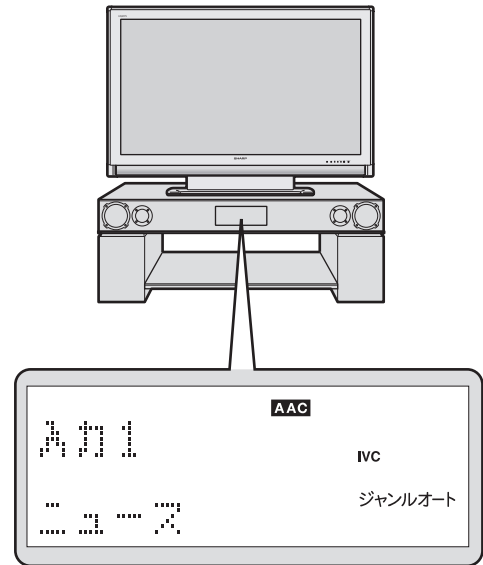
デジタル放送のテレビ番組ジャンル情報

ジャンル情報（電子番組表）	放送の信号	サウンドモード
ジャンル情報がある番組（デジタル放送など）		
情報／ワイドショー／ドラマ／バラエティ／ドキュメンタリー／趣味／教育／福祉	ステレオ／マルチチャンネル	スタンダード
映画	ステレオ／マルチチャンネル	シネマ
ニュース／報道	ステレオ／マルチチャンネル	ニュース
スポーツ	ステレオ	スポーツ1
	マルチチャンネル	スポーツ2
音楽／劇場／公演	ステレオ	ミュージック1
	マルチチャンネル	ミュージック2
アニメ／特撮	ステレオ	スタンダード
	マルチチャンネル	シネマ
ジャンル情報が認識できない番組		
地上アナログ放送やDVDソフトなど	ステレオの場合はワイド感拡張、マルチチャンネルの場合は、ドルビーバーチャルスピーカーに設定されています。お好みのサウンドモードでお聞きになりたいときは、手動で切り換えてください。	

サウンドモードを手動で切り換えるには…

アクオスのリモコン（例）

1 リモコンフタ内の 機能選択 を押す

• ファミリンク機能選択画面が表示されます。

アクオスの画面例

■ファミリンク機能選択
- AQUOSレコーダーで予約する
- 録画リスト
- メディア切換
- AQUOSで聞く
- サウンドモード切換
- HDMI機器選択

2 ▲▼ で「サウンドモード切換」を選び、決定 を押す

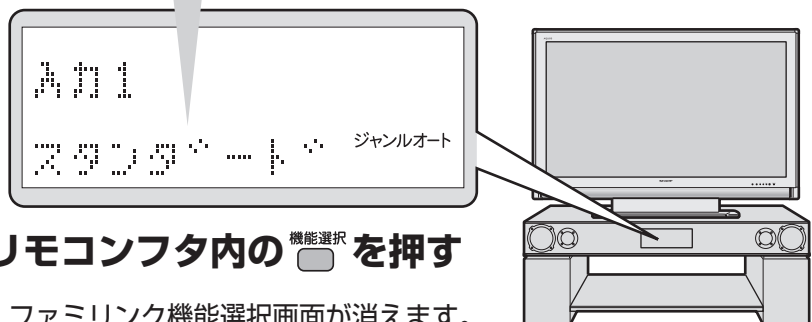
• 決定 を押すたびに次の順に切り換わります。

スタンダード → シネマ → ニュース → ミュージック 1 → ミュージック 2 → スポーツ 1 → スポーツ 2 → ナイト → スタンダード

入力1
スタンダード
ジャンルオート

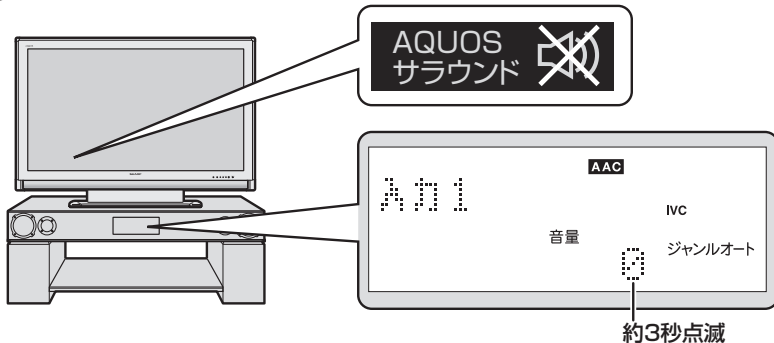
3 リモコンフタ内の 機能選択 を押す

• ファミリンク機能選択画面が消えます。

アクオスに向けて操作します。

アクオスのリモコン(例)

・アクオスのリモコンは本機の付属品ではありません。
・アクオスのリモコンは機種によって仕様が異なります。

一時的に音を消すには(消音モード)

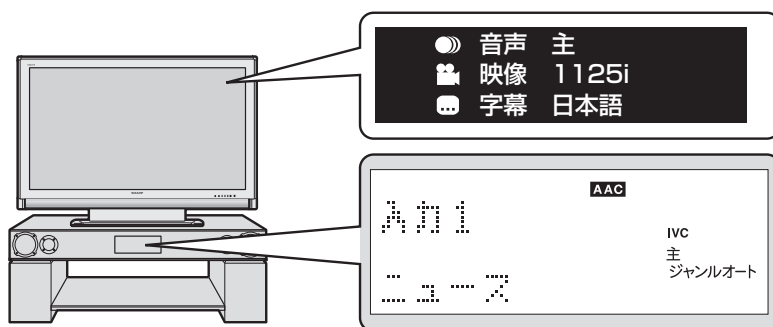
消音 を押す

消音モードを解除するには

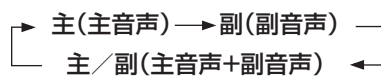
- もう一度 消音 を押す　　または 音量 を押す。

アクオスと本機の両方から音を出したい場合は・・・

おしらせ
- アクオスから音が出ている状態で、本機のリモコンを本機に向けて「消音」ボタンを押してください。
  一時的に本機の消音モード状態が解除され、アクオスと本機の両方から音が出ます。

音声多重放送の音声を切り換えるには

リモコンフタ内の 音声切換 を押す

- 音声切換 を押すたびに次の順に切り換わります。

主(主音声) → 副(副音声) → 主／副(主音声+副音声) → 主(主音声)

レコーダーの音声多重放送を聞くときは…

おしらせ
- レコーダーのデジタル音声出力設定を「PCM」にして、レコーダーのリモコンをレコーダーに向けて「音声切換」の操作をしてください。
- 音声出力設定が「AAC」の場合は、本機のリモコンを本機に向けて「音声切換」の操作をしても同様に切り換えできます。

「故障かな？」と思ったら

■ 次のような場合は故障でないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
なお、「保証とアフターサービス」については**42**ページをご覧ください。

	こんなときに	ここをお確かめください	参照ページ
共通	音が出ない	・音量が「0」になっていませんか。 ・一時的に音を消す設定になっていませんか。 ・接続している機器が正しく選択されていますか。（入力切換をまちがえていませんか。） ・接続している機器の電源は入っていますか。 ・接続している機器が、正しく入力端子に接続されていますか。 ・接続している機器の端子と本機の端子が、奥までしっかりと差し込まれていますか。	24、35 24、37 23 — 18、19 18、19
	左右から逆の音が出る	・音声入力（アナログ）のL（左）／R（右）が正しく接続されていますか。	18、19
	雑音が出る	・パソコン・携帯電話などの機器が本機の近くにある場合は、離してください。	7
	ボタンを押しているうちに正常な動作をしなくなった	・一度、電源を切り、操作をやり直してください。それでも動作しないときは、<リセット操作>をしてください。	22、40
	表示部がつかない	・表示部が消灯モードになっていませんか。点灯させたいときは、点灯モードに切り換えてください。	24
	電源が入らない	・電源プラグがコンセントからはずれていませんか。 ・保護回路が働いていることがあります。電源プラグをコンセントから抜き、5分以上たってから再び差し込んでください。	20 40
リモコン	リモコンが動作しない、または正しい動作をしない	・電池の ⊕、⊖ の向きが逆になっていませんか。 ・電池が消耗していませんか。 ・リモコンの送信部を本機のリモコン受信部に正しく向けていますか。 ・リモコン受信部との距離が遠すぎませんか。または、近すぎませんか。 ・本機の前に障害物はありませんか。 ・リモコン受信部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光など）があたっていませんか。 ・リモコンの正しいボタンを押していますか。 ・他の機器のリモコンを同時に操作していませんか。	21 21 22 22 22 22 13 —
	リモコンで電源が入らない	・電源コードはつながっていますか。 ・電池は入っていますか。	20 21
ファミリンク	ファミリンク機能が正しく動作しない	・HDMIケーブルは正しく接続されていますか。 ケーブルを正しく接続して、一度本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。再び電源プラグを差し込み、動作の確認をしてください。 それでも動作しない場合は、<リセット操作>をしてください。 ・接続している機器および本機の端子に奥までしっかり差し込まれていますか。	18、19 40 18、19
	アクオスのリモコンで本機を操作できない	・アクオスのリモコンをアクオスに向けて正しく操作していますか。 ・アクオスの設定が「AQUOSサラウンドで聞く」モードになっていますか。 ・HDMI CEC対応の機器を使用していますか。 ・アクオスのリモコンの電池が消耗していませんか。	31〜37 32 — —
	アクオスの音声が本機から聞こえない	・アクオスからの音声出力が、光デジタル音声ケーブルで本機の入力1に接続されていますか。	18
	音や画像が出ない	・HDMI対応の機器を使用していますか。 ・HDMIケーブルは正しく接続されていますか。 ケーブルを正しく接続して、一度本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。再び電源プラグを差し込み、動作の確認をしてください。 それでも動作しない場合は、<リセット操作>をしてください。 ・接続している機器および本機の端子に奥までしっかり差し込まれていますか。	18、19 18、19 40 —
	自動でジャンル連動が切り換わらない	・アクオスのファミリンク機能選択で、「AQUOSサラウンドで聞く」モードに設定していますか。 ・アクオスの「機能切換 — ファミリンク設定」の「ジャンル連動設定」が、「する」になっていますか。	32 33
	レコーダーで放送を視聴時に本機のサラウンドモードがジャンル連動しない	・アクオス側の入力切換をいったん他の入力に切り換えた後、もう一度レコーダーの入力に戻してください。	—

	こんなときに	ここをお確かめください	参照ページ
ファミリンク	レコーダーの電源を入れても、アクオスや本機の電源が入らない	• レコーダーを再生モードにしてください。 レコーダーが再生状態になると、アクオスや本機の電源が入ります。	—
	レコーダーを再生したときに、アクオスの映像と本機からの音声にズレがある	• 本機の「音声遅延設定」を「ON」モードにすると、軽減することができます。	34

よくあるお問い合わせ

■「故障かな？」と思ったら（**38～39**ページ）も併せてご覧ください。

	お問い合わせ	回　　答	参照ページ
接続	CDプレーヤーやカセットテープレコーダーなどを接続することはできますか？ アナログ入力はできますか？	• 接続可能です。「テレビやレコーダーなどを接続する」をご覧ください。	19
	外部スピーカーを接続することはできますか？	• 外部スピーカーを接続することはできません。	—
	外部アンプを接続して本機のスピーカーから音を出すことはできますか？	• 外部アンプを接続することはできません。	—
	ヘッドホンを接続することはできますか？	• ヘッドホンを接続することはできません。	—
ファミリンク	ファミリンクを使う場合に、特別に設定することはありますか？	• アクオス側での設定が必要です。	32～33
	アクオスの電源を入れてから本機の電源が入って音声が出るまでに十数秒かかるが不良では？	• 不良ではありません。接続しているＨＤＭＩ機器の認証などにある程度の時間がかかります。	—
	アクオスの電源を切ると本機の電源も切れますか？	• HDMI CEC対応のアクオスを接続し、アクオスの設定を「AQUOSサラウンドで聞く」モードに設定していれば、アクオスの電源に連動し切れます。	18、35
	二ヶ国語放送の音声を切り換えるには？	• アクオスリモコンフタ内の「音声切換」ボタンで操作できます。	37
	手動でそれぞれのプリセットサウンドモードに設定したあと、ジャンルオートに戻すにはどうすればいいですか？	• ジャンルオートの設定を解除しないで、手動切換の操作をした場合は、デジタル放送のテレビ番組に切り換えると、テレビ番組のジャンル情報に連動して、本機のサウンドモードが自動で切り換わります。 • ジャンルオートの設定を解除したときは、「する」の設定に戻してください。	— 33
その他	アクオスと本機の両方から同時に音を出すことはできますか？	• 一時的には可能ですが、電源の「入/切」や音量調整などのファミリンクによる連動動作はしなくなります。	32、37
	アクオスから音声を聞くにはどうすればいいですか？ アクオスの音声をヘッドホンで聞くにはどうすればいいですか？	• アクオスの設定を「AQUOSで聞く」モードに戻してください。電源の「入/切」や音量調整などのファミリンクによる連動動作はしなくなります。	32
	デモ表示を解除するにはどうすればいいですか？	• 本機のリモコンを本機に向けて、「入力切換」ボタンを３秒以上押してください。	24
	アクオスの電源を入れないで、CDプレーヤーやカセットテープレコーダーなどの音声を聞きたい場合はどうすればいいですか？	• 本機の「電源」ボタンで本機の電源を入れて、接続した機器の入力に手動で切り換えてください。	23
	待機ランプを消灯させることはできますか？	• 消灯させることはできません。	—
	リセット方法は？	• 「リセット操作について」をご覧ください。	40
	タイマー機能はありますか？	• タイマー機能はありません。	—

エラーメッセージについて

操作を誤ったときなどに、表示部に次のような表示がでます。

エラー表示	エラーの内容
FAN LOCK （3秒間表示）	• 背面アンプ部の空冷ファンが回っていない。 → 電源プラグを抜いて、空冷ファン周辺に異物がはさまっていないか確認してください。 異物があれば、取り除いてください。（※）
DSP-E2 DSP-E7	• サラウンド回路の動作不良。 → 近くに雑音を発生するものがあれば本体から離したり、電源プラグの差し込み位置を変えてみてください。（※）
DSP-E3	• サラウンド回路以外の動作不良。 → 近くに雑音を発生するものがあれば本体から離したり、電源プラグの差し込み位置を変えてみてください。（※）
HDMI、入力1、入力2のときに音声入力信号表示（PCM、DOLBY DIGITAL、DTS、AAC）が全消灯	• 入力信号がないとき。 → 接続した機器を再生してください。 • 規格外の信号で認識することができない。 → DOLBY DIGITAL、DTS、AAC、Liner PCM以外の信号は、認識することができません。 • デジタル音声入力端子の接続不良。 → 電源を切って、ケーブルが正しく接続されているか確かめてください。
Er-AP＊＊ （3秒間表示） ＊＊:数字を表示	• 自己チェックにて異常と判断した。 → 近くに雑音を発生するものがあれば本体から離したり、電源プラグの差し込み位置を変えてみてください。（※）
電源表示ランプ （赤色の点滅）	• 著しい大音量で聞いていませんか。 • 異常に暑い場所で使用していませんか。 → 大音量や異常に暑い場所で長時間使用すると、保護回路が働く場合があります。一度、電源プラグをコンセントから抜いて、5分以上経ってから再び電源プラグを差し込み、動作の確認をしてください。（※）

（※）電源プラグを差し込み直したり、電源を入れ直しても、同じ表示がでるときは、**42**ページの「保証とアフターサービス」をご覧のうえ、修理を依頼してください。

リセット操作について

異常が起きたら

この製品を使用中に、強い外来ノイズ（衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など）を受けたときや誤った操作をしたときなどに、正しく表示しなくなったり、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。

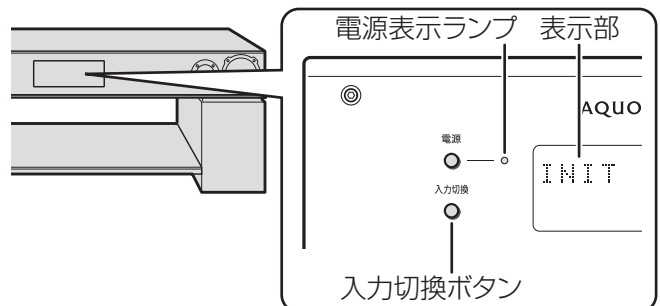
このようなときは、次のようにリセット操作をしてください。

<リセット操作>

1 電源プラグをコンセントから抜きます。

2 ◯ 入力切換 を押したまま、電源プラグを差し込みます。

電源表示ランプ（緑色）が点灯し、表示部に“INIT”が約1秒表示されたあと電源が切れ、電源表示ランプが橙色に変わります。

3 このあと一度、電源プラグをコンセントから抜いて、差し込み直してください。

• リセット操作をすると、各種の設定はお買いあげ時の状態に戻ります。

おもな仕様

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

● 本体部(アンプ/フロントスピーカー/サブウーハー内蔵)

アンプ部	
実用最大出力	総合150W フロントスピーカー:25W+25W (JEITA※) サブウーハー:100W (JEITA※)
アンプ構成	フロントスピーカー用:1ビットΔΣ(デルタシグマ)変調方式 サブウーハー用:パルス幅変調方式
1ビットサンプリング周波数	11.2MHz
音声入力端子	デジタル外部入力: HDMI入力×1(映像入力兼用) 角形光入力×2 アナログ外部入力: 2V rms=0dB(47KΩ) ピンジャック (L/R)×2
音声出力端子	デジタル外部出力: HDMI出力×1(映像出力兼用)
電源	100V AC、50/60Hz
消費電力	75W (待機消費電力:4.35W/省待機電力モード時:0.76W)
フロントスピーカー部	
スピーカー形式	2ウェイ[防磁設計]
スピーカー	ウーハー:10cm×2(4Ω) ソフトドームツイーター:2.5cm×2 (6Ω)
サブウーハー部	
形式	バスレフ型
スピーカー	ウーハー:16cm×1(3Ω)
共通部	
最大外形寸法	1,595(幅)×410(高さ)×469(奥行)mm (JEITA※) (AN-ACR1)
	1,315(幅)×476(高さ)×436(奥行)mm (JEITA※) (AN-ACS1)
棚寸法(内寸)	878(幅)×158(高さ)×377(奥行)mm (AN-ACR1)
	878(幅)×224(高さ)×377(奥行)mm (AN-ACS1)
質量	約71.6kg (AN-ACR1)
	約58.7kg (AN-ACS1)
耐荷重	約100kg (AN-ACR1)
	約80kg (AN-ACS1)
棚板耐荷重	約25kg

● リモコン部

リモコン	
電源	DC 3V(内蔵ボタン電池CR2025×1個)

※ 実用最大出力、最大外形寸法は、JEITA(電子情報技術産業協会)規格による測定値です。

保証とアフターサービス よくお読みください

保証書(別添)

■ 保証書は「お買いあげ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取ってください。保証書は内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

■ **保証期間**
お買いあげの日から1年間です。
保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

使い方や修理のご相談など

■ 修理・使い方・お手入れ・お買い物などのご相談・ご依頼、及び万一、製品による事故が発生した場合は、お買いあげの販売店、または下記窓口にお問い合わせください。

【お客様相談センター】

0120 - 001 - 251
携帯·PHS OK
携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

※詳細は、裏表紙をご確認ください。

補修用性能部品の保有期間

■ 当社は、この1ビットシアターラックシステムの補修用性能部品を、製品の製造打切後、8年保有しています。
■ 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは 出張修理

■ 「故障かな?」と思ったら(**38～39**ページ)を調べてください。それでも異常があるときは、使用をやめて、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店にご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容

- 品　　　名:**1ビットシアターラックシステム**
- 形　　　名:お買いあげの製品
  (AN-ACR1またはAN-ACS1)
- お買いあげ日(年月日)
- 故障の状況(できるだけ具体的に)
- ご　住　所(付近の目印も合わせてお知らせください。)
- お　名　前
- 電話番号
- ご訪問希望日

便利メモ

お客様へ…
お買いあげ日・販売店名を記入されると便利です。

お買いあげ日	販売店名
年　月　日	電話(　　)　　―

保証期間中

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できるときには、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

愛情点検

長年ご使用の機器の点検を!

このような症状はありませんか?

- 電源コードやプラグが異常に熱い
- コゲくさい臭いがする
- 電源コードに深いキズや変形がある
- その他の異常や故障がある

ご使用中止

故障や事故防止のため、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。なお、点検・修理に要する費用は、販売店にご相談ください。

さくいん

エコロジークラスでいきましょう。シャープ。

1ビットシアターラックシステム AN-ACR1/AN-ACS1

上手に使って、もっともっとエコロジークラス。

ファミリンク機能付アクオスの電源を切ると連動して当機の電源も自動的に切ることができます。
電源の切り忘れもなく効率的な省エネになります。

省エネ 「HDMI OFF」モードに設定

当機は電源を切っても少量の電力を消費しています。
「HDMI OFF」モードに設定することにより、更に効果的な省エネになります。

使い方や修理のご相談など

【お客様相談センター】

0120 - 001 - 251
携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

■IP電話などからフリーダイヤルサービスをご利用いただけない場合は…

電話：043 - 331 - 1626	FAX：043 - 297 - 2696
〒261-8520　千葉県千葉市美浜区中瀬1-9-2	

受付時間 ●月曜～土曜:9:00～20:00　●日曜・祝日:9:00～17:00　(年末年始を除く)

●電話番号をお確かめのうえ、お間違いのないようにおかけください。
●所在地・電話番号・受付時間などについては、変更になることがあります。

(2007.03)

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」
などはホームページをご活用ください。

シャープサポートページ
http://www.sharp.co.jp/support/

シャープ株式会社

本　　社　〒545-8522　大阪市阿倍野区長池町22番22号
AVシステム事業本部　〒329-2193　栃木県矢板市早川町174番地

Printed in Malaysia

TINSJA181WJZZ
07P02-MA-NM